

市町村名	伊是名村						
平成 2 8 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-①	観光地等クリーンアップ事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア	
担当部課名	商工観光課	事業実施(予定)年度	平成24年度～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光リゾート産業の振興	
						Ⅲ-1-(1)	
事業内容	本村に数多く点在する史跡や文化財を地域資源として活用していくため、村内の各種イベントで使用する会場や観光施設、観光ルート等の草刈作業や花壇等の環境整備を行い、花木の植栽など美化活動を行う。						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	-	32,711	35,000	35,000	35,000
		(b) 予算現額	-	32,711	35,000	29,600	39,084
		(c) 増減額 (b-a)	-	0	0	▲ 5,400	4,084
		(d) 繰越額	30,758	-	-	-	-
		A. 計 (b+d)	30,758	32,711	35,000	29,600	39,084
		B. 執行済額	22,487	24,426	26,719	28,730	39,084
		うち交付金充当額	17,990	19,540	21,375	22,983	31,267
		次年度繰越額	0	0	0	0	0
		執行率 (%) (B/A)	73.1%	74.7%	76.3%	97.1%	100.0%
	予算の状況の説明	備品購入費を追加したため、4,084千円追加した。計画どおり執行でき適正であったと考える。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
				25年度	26年度	27年度	28年度
	観光ルート等の雑草の除去及び花木の植栽	目 標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)	
		実 績	実施	実施	実施	実施	
	まつり会場(1カ所)、フットパスコース(1カ所)、集落内外(5カ所)、フラワーロード(4カ所)、観光施設等(4カ所)	目 標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)	
		実 績	実施	実施	実施	実施	
	バックホウ、ホイールローダーの導入	目 標	()	()	()	(導入)	
		実 績				導入	
	達成状況説明	・観光ルート等の雑草の除去については現場の状況に応じた草刈り作業を実施するとともに、花木の植栽や植栽後の定期的な肥培管理についても、散水・草取り作業・追肥等を計画的に実施することができた。					
	成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(24年度)	26年度	27年度	28年度
美化緑化整備箇所:15箇所		目 標	(15箇所)	(15箇所)	(15箇所)	(15箇所)	()
		実 績	15箇所	15箇所	15箇所	16箇所	
バックホウ、ホイールローダーの導入		目 標	()	()	()	(バックホウ 1台 ホイールローダー 1台)	()
		実 績				バックホウ 1台 ホイールローダー 1台	
進捗状況説明		・当初は観光ルート等の美化緑化箇所を15箇所想定していたが、1箇所漏れていたため追加した。全体的に現場の状況に応じた草刈り作業を実施するとともに、花木の植栽や植栽後の定期的な肥培管理についても、散水・草取り作業・追肥等を計画的に実施することができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・伊是名村への観光誘客の受入に向けて観光地及び観光ルート等の景観の維持、向上を図る必要がある。 ・草木の繁忙期及び夏場の猛暑時期は作業効率が悪く除草作業が行き届かない状況が生じた。	・草木伐採の繁忙期及び夏場の猛暑時期の対策として、公用車の導入による作業簡略化、作業員配置の見直し、猛暑の時間帯での休憩等、臨機応変な対応をすることにより、作業員の作業意欲を向上させ、作業効率の向上を図っていく。
今後の取り組み方針		
・作業員の雇用形態を見直し、一年通して就業できるよう指導していく。 ・作業効率を上げるための作業計画の見直しや作業員の配置や作業箇所の振り分けについて、検討していく。 ・猛暑時には休憩の取り入れ、定期的な作業員の安全講習会や会議を実施することで、作業効率のあがる環境作りに努めたい。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)						
		総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
		39,084	39,084	31,267	7,817	0
伊是名村 交付対象事業費 39,084千円	共済費 2,867千円	臨時職員社会保険料 11名				
	賃金 24,891千円	臨時職員賃金 11名				
	需用費 2,111千円	消耗品及び燃料費				
	役務費 208千円	通信運搬費				
	使用料及び賃借料 792千円	重機等使用料				
	原材料費 2,175千円	花の種苗代、肥料代等				
	備品購入費 6,040千円	マイクロバックホウ 1台 ホイールローダー 1台				

資金の 使途の 流れ、 費目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定について、臨時職員は募集して雇用、需用費・役務費・使用料・原材料費・備品購入費は環境美化に要する費用であり支払いについても適切に実施され、妥当である。 ○予算規模については備品購入費の増のため、当初予算より増となったが、入札残等は補正で減額し、不用額抑止に努め、ほぼ見込みどおり執行できた。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なもののなか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊是名村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-②	いぜな尚円王まつり支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア	
担当部署名	商工観光課	事業実施(予定)年度	平成24年度～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光リゾート産業の振興	
						Ⅲ-1-(1)	
事業内容	本村の魅力を発信し、観光客の誘客を図るため、いぜな尚円王まつりにおいて、各字・島外文化交流、マリンレジャー、スポーツ交流、各種体験プログラム等を実施する。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	28年度	年度
	予算の状況	(a)当初予算額	7,340	7,000	6,000	6,000	
		(b)予算現額	7,340	6,000	6,000	6,000	
		(c)増減額(b-a)	0	▲1,000	0	0	
		(d)繰越額	—	0	0	0	
		A.計(b+d)	7,340	6,000	6,000	6,000	
	B.執行済額		7,339	6,000	6,000	6,000	
	うち交付金充当額		5,871	4,800	4,800	4,800	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明		計画どおり執行し、適正であったと考える。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	28年度	年度	
	いぜな尚円王まつりの開催支援	目 標	(開催支援)	(開催支援)	(開催支援)	()	
		実 績	開催支援	開催支援	開催支援		
達成状況説明	各種体験プログラムとして遊具体験などを実施し、ステージイベントでは、キャラクターショーやアーティストライブを行い、レーザーショー・打上花火で盛り上げることができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	28年度	年度	目標値(年度)
	いぜな尚円王まつりの来場者数:2,000人 (参考 H27来場者数:2,060人)	目 標	()	(2,000人)	(2,000人)	()	()
		実 績		2,000人	1,040人		
	進捗状況説明	まつり2日目が、当日の悪天候で中止になったことで、目標数を下回った。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	「いぜな尚円王まつり」と題して開催したが、尚円王をキーワードにした取り組みが少ない。また、本村の人口からまつりへの来場者数には限界があり当該来場者のさらなる増加を目指し、観光産業の発展に寄与しなければならない。	観光客誘客の促進を図るために、事前会議で運営スタッフ、イベント企画業者等を交えて活発な意見交換を行い、より質の高い内容に取り組む。また、尚円王に関わるイベントプログラムも取り入れて企画運営を行う。
今後の取り組み方針		
「王様が生まれた島」として認知度を高められるよう更にPRし、より充実した企画運営を展開していくことで、伊是名村の観光誘客に繋げていく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>6,000</td><td>6,000</td><td>4,800</td><td>1,200</td><td>0</td></tr> </table> 伊是名村 交付金対象事業費 6,000千円 補助金 6,000千円 いぜな尚円王まつり実行委員会 6,000千円 運営費補助 遊具体験、 ステージ出演料、 音響・照明・ レーザーショー・ 花火委託料					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	6,000	6,000	4,800	1,200	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
6,000	6,000	4,800	1,200	0										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○実行委員会形式の団体への支出であり、選定については妥当であったと考える。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模について事業内容に見合っており適正であった。											
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途目的について、支出調書・書類により確認を行い適正であった。											

市町村名	伊是名村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-③	いげな88トライアスロン大会支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア	
担当部課名	商工観光課	事業実施(予定)年度	平成25年度～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光リゾート産業の振興	
						Ⅲ-1-(1)	
事業内容	いげな88トライアスロン大会の受入体制の強化、イメージアップを図るため、大会運営を支援する。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	27年度	28年度	年度	年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	10,000	7,000	7,000		
		(b) 予算現額	5,000	7,000	7,000		
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 5,000	0	0		
		(d) 繰越額	—	—	—		
	A. 計 (b+d)		5,000	7,000	7,000		
	B. 執行済額		5,000	7,000	7,000		
	うち交付金充当額		4,000	5,600	5,600		
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率 (%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%		
予算の状況の説明		計画どおり執行し、適正であったと考える。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	27年度	28年度	29年度	
	いげな88トライアスロン大会の支援	目 標	(大会の支援)	(大会の支援)	(大会の支援)	()	
		実 績	大会の支援	大会の支援	大会の支援		
達成状況説明	スイム2キロ・バイク66キロ・ラン20キロのミドルスタンダードコースとして、全国各地(外国人含め)より600名余りの参加申込があり、当日は530名の選手が参加した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	トライアスロン参加選手:600名	目 標	()	(600名)	(600名)	()	()
		実 績		555名	530名		
	ボランティア、関係者及び観戦者:400名	目 標	()	(400名)	(400名)	()	()
		実 績		305名	388名		
	進捗状況説明	・参加許可通知書送付後と大会当日までのキャンセル者 97名 ・第29回いげな88トライアスロン大会 当日参加者数 個人種目 473名 リレー種目 57名 計 530名 村外スタッフ 63名 船舶旅客集計表を参考に観戦者数 325名 合計 約918名(大会来場者数) ・村内ボランティアスタッフ 約514名(参考) 例年、トライアスロン参加予定者80名～100名弱がキャンセルしており、今回も97名のキャンセルと、その同伴者が来島しなかったことが、目標を達成できなかった主な要因であり、キャンセルの理由としては参加予定者の都合による不可抗力によるものである。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・参加許可通知書送付後から大会当日までのキャンセル者が97名でっており、併せて同伴者(応援者)も減ったことで目標を下回ったと考えられる。 ・安心、安全な大会にすることが参加者のリピーターにも繋がると考えているので、第一に安全性を確保する。	・本村の宿泊施設の収容数も考慮しながら、受入体制の整備を検討し、キャンセル者を見込んだ参加許可通知書の送付数を設定し、目標数を目指す。 ・安全性を強化するうえで、関係者と運営スタッフ間での連携が必要不可欠と考える。また、危険箇所へポイントごとに安全対策の強化が必要。 ・レース後の交流、レース以外での付加的な要素で、参加者が楽しめるような大会にし、リピーター確保に繋げる。
今後の取り組み方針		
・より多くの参加者を募るのと同時に本村の受入体制をより強化することと、全選手が安心・安全でよりよい大会が行えるよう危険箇所への安全対策強化と、運営スタッフの増員が必要なことから、今後大会運営に関してレースディレクターや村内・村外スタッフ等と更なる連携を図る。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>7,000</td><td>7,000</td><td>5,600</td><td>1,400</td><td>0</td></tr> </table> 伊是名村 交付金対象事業費 7,000千円 補助金 7,000千円 いぜな88トライアスロン大会実行委員会 7,000千円 運営費補助 ふれあいパー ティー出演料、 音響・照明、 広告料、 備品購入費、 安全強化備品					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	7,000	7,000	5,600	1,400	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
7,000	7,000	5,600	1,400	0										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○実行委員会形式の団体への支出であり、選定については妥当であったと考える。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模について事業内容に見合っており適正であった。											
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途目的について、支出調書・書類により確認を行い適正であった。											

市町村名		伊是名村					
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-④	「尚円王(金丸)生誕の村」整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-7	
担当部課名	企画政策課	事業実施(予定)年度	平成24年度～28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり Ⅲ-1-(1)	
事業内容	魅力ある歴史の島づくりを進め、更なる誘客による観光振興を図るため、PR活動を行う一方、尚円王に関する史跡等の整備・復元を行う。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	14,000	42,973	76,886	80,000	42,606
		(b) 予算現額	14,000	56,685	95,571	80,491	34,350
		(c) 増減額 (b-a)	0	13,712	18,685	491	▲ 8,256
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—
		A. 計 (b+d)	14,000	56,685	95,571	80,491	34,350
	B. 執行済額		13,629	39,348	76,354	73,075	32,586
	うち交付金充当額		10,903	31,478	61,082	58,459	26,068
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		97.4%	69.4%	79.9%	90.8%	94.9%
予算の状況の説明		当初見込み額より史曲・尚円に係る費用が減額となったため事業費を変更した。不用額については、史曲・尚円の業務に要した経費が当初契約額を下回ったことによるものとなっている。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
	観光ガイド等養成講座の実施	目 標	(ガイド養成講座)	(ガイド養成講座)	(ガイド養成講座)	()	
		実 績	ガイド養成講座	ガイド養成講座	ガイド養成講座		
	みほ所修復整備設計業務	目 標	()	()	(実施)	()	
		実 績			実施		
	旧蔵品修復・復元業務	目 標	()	()	(実施)	()	
		実 績			実施		
	史曲「尚円」の上演	目 標	()	()	(上演)	()	
		実 績			上演		
	達成状況説明	予定していた委託業務を全て実施することができた。史曲・尚円については、浦添市でこホールにおいて公演し、伊是名村のPRにつながった。また、ガイド養成講座においては、これまでのコースのブラッシュアップと村内での広がり考えた取り組みを実施した。みほ所修復整備設計業務については、測量と実施設計を行った。銘苅家・名嘉家の旧蔵品修復復元については、銘苅家・名嘉家の古文書、漆器類、金工品、陶芸品等の修復や復元、図面作成を行った。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	年度	年度	目標値(年度)
	平成28年度入域観光客数	目 標	()	(35,000人)	()	()	()
		実 績		34,756人			
	観光ガイド、インストラクター等養成講座の実施による観光人材育成:5名	目 標	()	(観光人材育成5人)	()	()	()
		実 績		観光人材育成3人			
進捗状況説明	入域観光客数については、目標値には届かなかったが、目標値の99%以上であり、概ね達成できた。観光人材育成については、これまでに参加した村民がモニターツアーを実施することを目標に取り組んできた。モニターツアーのガイドを実施した村民3人に対して、コーディネーター認定証を授与した。都合によりモニターツアーガイドを実施できなかった村民2人には、仮認定証を授与した結果、目標を下回ることとなった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	当初、観光客の満足度を高めることを目的に実施してきた観光人材育成事業であるが、観光客だけでなく、村民、児童生徒の学習にもつながるということから、子ども会対象に実施してもいいのではないか、という意見があり、次年度以降のガイドの活用が検討された。 尚円王ゆかりの文化財整備については、文化振興のみならず観光振興にも寄与するため、必要と考える。旧蔵品の修復については、単年度で完結できないため、継続した事業実施が必要である。	観光コーディネーターを活用した島めぐり・環境教育を学校と連携して取り組むことで、本事業の趣旨が理解され、児童・生徒には、島への誇りを醸成する機会になるものとする。 文化財の整備については、文化財保護審議会など第三者機関での審議を行い、工法などを十分確認し、事業が計画どおり実施できるよう努める。旧蔵品については引き続き修復復元に取り組み、修復復元された旧蔵品の活用については情報発信に努める。
今後の取り組み方針		
平成28年度で終了した観光コーディネーター事業については、観光のみならず、児童・生徒の学習にも活用していく。 みほそ所については、修復整備工事を平成29年度より実施する予定。また、銘苅家・名嘉家旧蔵品修復復元も継続して実施し、修復復元を終えた旧蔵品については、ホームページなどで情報発信していく。		

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額		交付対象 外経費
		市町村 負担金		
32,586	32,586	26,068	6,518	0

伊是名村
32,586千円

委託料
32,586千円

株式会社 ルーツ
5,811千円

普久原音楽事務所
14,904千円

株式会社 国建
2,376千円

一般社団法人 沖縄美ら島財団
9,495千円

伊是名島観光「コーディネータ」
育成事業委託業務

民族音楽「史曲・尚円」公演
委託業務

みほそ所保存修理測量設計

銘苅家・名嘉家旧蔵品
修復・復元

資金の 使途の 流れ、 検 査 評 価 ・ 費 目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○みほそ所修理測量設計については、指名競争入札で業者を選定。その他の業務については業務の特殊性、複数の業者からの見積により随意契約しており、妥当と考える。 ○史曲の業務については、実績により減額が生じており、適正な規模であったと考える。 ○実績により書類等を精査して委託料を確定しており、妥当と考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊是名村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑤	伊是名モータースポーツ支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア	
担当部署名	建設環境課	事業実施(予定)年度	平成26年度～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光リゾートの振興	
						Ⅲ-1-(1)	
事業内容	観光誘客を促進するため、場外離着陸場を活用した新たなイベント事業として、モータースポーツ大会を支援する。						
実施方法	■直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		26年度	27年度	28年度	年度	年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	7,317	17,942	15,030		
		(b) 予算現額	15,044	11,324	12,372		
		(c) 増減額 (b-a)	7,727	▲ 6,618	▲ 2,658		
		(d) 繰越額	0	0			
		A. 計 (b+d)	15,044	11,324	12,372		
		B. 執行済額	12,404	11,324	12,336		
		うち交付金充当額	9,922	9,059	9,868		
		次年度繰越額	0	0	0		
		執行率 (%) (B/A)	82.5%	100.0%	99.7%		
	予算の状況の説明	当初予算から減額となった2,658千円は、中止となった1大会分に係る経費が主である。それ以外については計画どおりの予算執行ができた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	ドラッグレース大会の開催 3回	目 標	(開催支援)	(開催支援)	(3回)	()	
		実 績	開催支援	開催支援	3回		
	スーパードリフト大会の開催 3回	目 標	(開催支援)	(開催支援)	(3回)	()	
		実 績	開催支援	開催支援	2回		
	エキサイティング・ジムカーナ大会の開催 2回	目 標	(開催支援)	(開催支援)	(2回)	()	
		実 績	開催支援	開催支援	2回		
	達成状況説明	ドラッグレース大会及びジムカーナ大会については計画どおり開催することができたが、スーパードリフト大会については、1大会が中止となった。それぞれの大会における関係スタッフの船賃、レース車及び関係車両の航送料の助成、マスコミを活用しての事前コマースルを行う等、開催支援を行った。					
	成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度
ドラッグレース大会来場者数		目 標	()	(300人)	(200人)	(300人)	()
		実 績		684人	150人	475人	
スーパードリフト大会来場者数		目 標	()	(300人)	(400人)	(400人)	()
		実 績		614人	640人	325人	
エキサイティング・ジムカーナ大会来場者数		目 標	()	()	(100人)	(200人)	()
		実 績			100人	176人	
進捗状況説明		ドラッグレース大会については、計画どおりの開催で目標を達成することができたが、スーパードリフト大会については、9月18日及び10月2日に開催を予定していたが期日間隔が短く9月大会への参加者が少なかったため大会が中止となり目標を達成することができなかった。また、ジムカーナ大会については、1大会が年明け直後の開催であったため来場者が少なく、目標を達成することができなかった。しかし、大会全体で見た場合の来場者数は、900人に対し976人となり目標を上回ることができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・島外からより多くの観戦者を受け入れるため、船舶の運航日程を変更しての対応は引き続き必要である。 ・大会終了後の会場内の片付け、清掃が不十分であったため次期大会の開催に支障を来すことがあったことから、使用後の現状復旧は徹底して行うよう指導を強化する。 ・大会日程が長時間にわたることから、観戦者用の飲食について業者を募集して対応しているが応募業者が少なく充分な対応ができていない状況であった。	・島外からの観戦者を増やすための策を、各協会側と協議し講じて行くとともに、前年度同様、マスコミ等を活用した宣伝などを積極的に行う。 ・レース観戦とあわせて会場内で楽しめる企画づくりを主催者と検討する。 ・大会日程が決まり次第、村内の飲食店や青年会等に屋台を出店していただけるよう依頼する。
今後の取り組み方針		
・大会の模様を新聞に掲載し、より多くの人にモータースポーツの楽しさ、魅力を発信していく。 ・村外からの来場者に島をPRするため島内視察ができるかどうか検討していく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>12,336</td><td>12,336</td><td>9,868</td><td>2,468</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	12,336	12,336	9,868	2,468	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
12,336	12,336	9,868	2,468	0										
伊是名村 12,336千円 共済費 213千円 → 臨時職員(1人) 213千円 賞金 2,274千円 → 臨時職員 1,617千円 大会準備雇用者(10人) 657千円 需用費 567千円 → 消耗品費(クラッシュバットカバー、消耗品) 419千円 燃料費 148千円 役務費 8,441千円 → 通信運搬費(車輛航送費等) 6,705千円 広告料(ラジオCM) 1,706千円 手数料 30千円 委託料 120千円 → 事業PR(小規模ライブ) 120千円 使用料及び賃借料 721千円 → 使用料(フォークリフト、マイクロバス、簡易トイレ) 721千円														
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○見積により選定しており、妥当であったと考える。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○執行率99.7%であり適正な規模であった。											
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	—											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○事業目的に即し必要なものであったと判断した。											

市町村名	伊是名村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑥	いいな運天港いちやり場まつり支援事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-イ	
担当部課名	商工観光課	事業実施 (予定)年度	平成26年度～33年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	観光リゾート産業の振興	
事業内容	観光誘客を促進するため、伊是名村・伊平屋村・今帰仁村の三村交流連携事業である「いいな運天港いちやり場まつり」を支援する。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	800	1,100	1,100		
		(b)予算現額	1,100	1,100	1,100		
		(c)増減額(b-a)	300	0	0		
		(d)繰越額	—	—	—		
		A. 計(b+d)	1,100	1,100	1,100		
	B. 執行済額		1,093	1,100	1,064		
	うち交付金充当額		874	880	851		
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率(%) (B/A)		99.4%	100.0%	96.7%		
予算の状況の説明		活動目標を達成しており、計画どおり執行でき適正であったと考える。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	年度	
	「いいな運天港いちやり場まつり」の支援		目 標 (実施)	(実施)	(実施)	()	
			実 績	実施	実施	実施	
達成 状況 説明	・活動目標を達成するために、「いいな運天港いちやり場まつり」の支援を行った。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値 (年度)	26年度	27年度	28年度	目標値 (年度)
			目 標 ()	(実施)	(実施)	(実施)	()
	「いいな運天港いちやり場まつり」の実施による三村の交流		実 績	実施	実施	実施	
	進捗 状況 説明	・「いいな運天港いちやり場まつり」を実施することにより、成果目標を達成することができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・離島及び沖縄本島の三村広域連携事業であるため、定期的な会議の開催等による意見交換と情報の共有を図る。また、会場である運天港は、市街地から離れた場所にあり、三村以外の人たちを誘客するには立地的に良い場所とは言い難いため、三村の特産品や魅力をイベント内において更なる情報発信が必要である。	・年々来場者は増加しているが、運天港の立地を生かしたイベント、また、特産品等イベントを計画し、更なる来場者数の増加また来場の満足度を高めていく。
今後の取り組み方針		
伊平屋・伊是名・今帰仁三村の広域連携事業として、特産品やイベント内容の更なる充実を図るとともに、三村の魅力を最大限に発信する取り組みを強化する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
伊是名村 交付対象 事業費 1,100千円 補助金 1,100千円 三村交流事業実行委員会 1,100千円 いいな運天港いちやり場まつり補助金				
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
1,100	1,064	851	213	36

資金の 使途の 流れ、 点検 評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は三村交流事業実行委員会(事務局・今帰仁村)への負担金であり、適切である。 ○予算規模についても事業内容に見合った規模を負担金として支出しており、適正であった。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊是名村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑦	沖縄らしい風景づくり推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(6)-7	
担当部署名	企画政策課	事業実施(予定)年度	平成26年度～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄らしい風景づくり Ⅲ-10-(1)	
事業内容	人と自然が共生する村づくりを推進し、地域と一体となった魅力的な景観形成を推進するため、個人が実施する外観形成に有効な赤瓦屋根の葺き替えに要する経費を支援する。また、地域での景観形成活動を行う団体にも活動費の一部を支援する。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	27年度	28年度	年度	年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	4,400	5,750	1,000		
		(b) 予算現額	4,400	1,000	7,000		
		(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 4,750	6,000		
		(d) 繰越額	—	—	—		
		A. 計 (b+d)	4,400	1,000	7,000		
	B. 執行済額		400	1,000	6,645		
	うち交付金充当額		320	800	5,316		
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率 (%) (B/A)		9.1%	100.0%	94.9%		
予算の状況の説明		当初は団体助成のみを計上していたが、赤瓦助成の申込みがあり事業費を増額変更した。不用額は、実績により生じた額となっている。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	年度	
	景観形成への支援 団体支援→5団体 赤瓦助成→1件	目 標	(赤瓦助成1件 団体助成2件)	(赤瓦助成1件 石垣助成1件 団体助成5団体)	(団体支援5団体 赤瓦助成1件)	()	
		実 績	団体助成2件	団体助成5団体	団体支援5団体 赤瓦助成1件		
達成状況説明	赤瓦助成については、これまで年度当初から予算を確保していたが、該当者がいなかったことから事業費を減額した経緯がある。このため、平成28年度は申請があった段階で事業費を増額して執行した。団体助成については、5団体とも地域住民の景観形成に対する意識向上につながっている。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値 (年度)	26年度	27年度	28年度	目標値 (年度)
	景観の向上:5集落 赤瓦助成:1件	目 標	()	(団体助成 2団体)	(団体助成 5団体)	(5集落 1件)	()
		実 績		団体助成 2団体	団体助成5団体	5集落 1件	
	進捗状況説明	地域住民が主体となって景観形成に取り組むことで景観保全につながった。集落内の空きスペース等を利用して花壇を設置して景観作物を植えるなど、全集落において景観意識の向上につながっている。過去2年間、赤瓦助成申請がなかったが、条件を拡充したことで実施することができた。重点地区における赤瓦屋根の景観保全につながった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	赤瓦助成については、これまでの条件に加え、小屋組までを助成対象としたことで事業が実施できた。伊是名集落の重点地区のみの制度であるにもかかわらず、それ以外の方からの問い合わせがあるなど、制度について説明が必要である。	これまでの400万円の上限に加え、小屋組の費用200万円も助成対象にしたことで赤瓦葺き替えを考えている住民にとって制度が利用しやすくなった。引き続き赤瓦屋根による景観保全を推進していく。 赤瓦助成については、重点地区のみに配布しているチラシがあるものの、それ以外に住んでいる方からの問い合わせがあることから、広く制度を知ってもらうため、適時広報誌に掲載する。また、重点地区がある伊是名集落に於いて説明会を開催し、制度の周知に努める。
今後の取り組み方針		
赤瓦助成について、赤瓦葺き替え費用と小屋組が助成対象となったことで、次年度以降も実施できるものとする。赤瓦葺き替えは島外の専門業者しか依頼できず、なかなか島内での人材育成が図られない。ただ、小屋組については、地元の人材を活用したことで工事費用の抑制につながっていると考える。引き続き地元の人材を活用し、技術習得の機会を創出できるよう、取り組んでいきたい。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
伊是名村 6,645千円 補助金 6,645千円 景観形成団体 5団体 1,000千円 赤瓦助成 1件 5,645千円 伊是名集落 200千円 仲田集落 200千円 諸見集落 200千円 内花集落 200千円 勢理客集落 200千円 個人 5,645千円														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金 充当額</th><th>市町村 負担金</th><th>交付対象 外経費</th></tr> <tr> <td>6,645</td><td>6,645</td><td>5,316</td><td>1,329</td><td>0</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費	6,645	6,645	5,316	1,329	0
総事業費	交付対象事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費										
6,645	6,645	5,316	1,329	0										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
○	○	支出先の選定方法は妥当か。	○交付要綱に基づき決定しており、妥当である。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予定通り執行されており、妥当である。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○助成金交付要綱に基づき赤瓦助成については助成率、団体助成は定額助成しており、受益者負担は妥当と考える。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○実績報告に基づき書類等検査し、経費については対象経費に限定されている。											

市町村名	伊是名村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑧	屋之下原スポーツアイランド事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア	
担当部課名	企画政策課	事業実施(予定)年度	平成28年度～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光リゾート産業の振興	
						Ⅲ-1-(1)	
事業内容	地域資源を活かした産業振興のため、サーキット場、パークゴルフ場等を整備する。						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			28年度	年度	年度	年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	5,000				
		(b) 予算現額	6,733				
		(c) 増減額 (b-a)	1,733				
		(d) 繰越額	—				
		A. 計 (b+d)	6,733				
	B. 執行済額		6,733				
	うち交付金充当額		5,386				
	次年度繰越額		0				
	執行率 (%) (B/A)		100%				
予算の状況の説明		・当初は策定委員会の開催を想定していなかったが、地域の意見等を集約するため、策定委員会を設置し、その開催費用等を追加したことにより1,733千円増額となった。 ・活動目標を達成しており、計画どおり執行でき適正であったと考える。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	年度	年度	年度	
	屋之下原スポーツアイランド基本計画策定業務の実施	目 標	(実施)	()	()	()	
		実 績	実施				
達成状況説明	屋之下原スポーツアイランド基本計画策定業務を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	年度	年度	目標値(年度)
	屋之下原スポーツアイランド基本計画の策定	目 標	()	(基本計画の策定)	()	()	()
		実 績		基本計画の策定			
	進捗状況説明	・基本計画を策定することを目的に策定委員会を開催(3回)し、計画的に実施することができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	今回策定した基本構想・基本計画では、パークゴルフ場の整備やモータースポーツ場の整備及び便利施設の整備等、大規模整備になることから、財政状況等を勘案しながら慎重に計画する必要がある。	今回の計画では、利活用方針や整備方針を決め、概算工事費を算出したが、事業費が大きくなっていることから、必要以上の整備とならないように、基本設計の段階で再考する。
今後の取り組み方針		
・基本計画に基づき、平成29年度以降に基本設計を行い、年次計画に沿って優先順位の高いものから整備するよう努める。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>6,733</td><td>6,733</td><td>5,386</td><td>1,347</td><td>0</td></tr> </table> 伊是名村 6,733千円 報酬 132千円 委員(10人) 132千円 計画策定委員報酬 旅費 24千円 委員(10人) 24千円 計画策定委員費用弁償 委託料 6,577千円 (株)イーエーシー 6,577千円 屋之下原スポーツアイランド 基本構想・基本計画策定					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	6,733	6,733	5,386	1,347	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
6,733	6,733	5,386	1,347	0										
資金の流 れ、使 途の 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
○	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、指名競争入札で選定しており、妥当であったと考える。 ○予算については、6社から参考見積を徴収し積算したことから適正であったと考える。 ○費目・使途は事業目的にのみ限定したことから妥当であったと考える。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊是名村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑨	臨海施設機能強化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア	
担当部課名	商工観光課	事業実施(予定)年度	平成28年度～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光リゾート産業の振興	
						Ⅲ-1-(1)	
事業内容	本村の玄関口である仲田港ターミナルを含む臨海施設を機能強化するための基本計画を策定する。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			28年度	年度	年度	年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	8,000				
		(b)予算現額	8,100				
		(c)増減額(b-a)	100				
		(d)繰越額	—				
		A.計(b+d)	8,100				
	B.執行済額		8,100				
	うち交付金充当額		6,480				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		100%				
予算の状況の説明		・活動目標を達成しており、計画どおり執行でき適正であったと考える。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	年度	年度	年度	
	臨海施設機能強化基本計画策定業務の実施	目標	(実施)	()	()	()	
		実績	実施				
達成状況説明	臨海施設機能強化基本計画策定業務を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	年度	年度	目標値(年度)
	臨海施設機能強化基本計画の策定	目標	()	(基本計画の策定)	()	()	()
		実績		基本計画の策定			
	進捗状況説明	・基本計画を策定することを目的に策定委員会を開催(3回)し、計画的に実施することができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	仲田ターミナルを含む臨海施設は、併用開始から20年近くが経ち、利便性が低下している。基礎的な施設は整っていることから、それらの長寿命化を図りつつ、現在の需要にマッチするような施設に機能強化する。	今回の計画では、整備方針を決め、概算工事費を算出したが、事業費が大きくなっていることから、必要以上の整備とならないように、基本設計の段階で再考する。
今後の取り組み方針		
・基本計画に基づき、平成29年度以降に基本設計を行い、年次計画に沿って優先順位の高い施設から再整備していく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8,100</td><td>8,100</td><td>6,480</td><td>1,620</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	8,100	8,100	6,480	1,620	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
8,100	8,100	6,480	1,620	0										
伊是名村 8,100千円 委託料 8,100千円 (株)イーエーシー 8,100千円 臨海施設機能強化基本計画策定														
資金の流 れ、費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、指名競争入札で選定しており、妥当であったと考える。 ○予算については、6社から参考見積りを徴収し積算したことから適正であったと考える。 ○費目・使途は事業目的にのみ限定したことから妥当であったと考える。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊是名村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-10	尚円王マラソン大会支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア	
担当部課名	商工観光課	事業実施(予定)年度	平成28年度～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光リゾート産業の振興	
						Ⅲ-1-(1)	
事業内容	尚円王マラソン大会の受入体制の強化、イメージアップを図るため、大会運営を支援する。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		28年度	年度	年度	年度	年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	11,000				
		(b) 予算現額	11,000				
		(c) 増減額 (b-a)	0				
		(d) 繰越額	—				
		A. 計 (b+d)	11,000				
	B. 執行済額		11,000				
	うち交付金充当額		8,800				
	次年度繰越額		0				
	執行率 (%) (B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		活動目標を計画どおり達成でき、予算執行も適正であったと考える。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	年度	年度	年度	
	尚円王マラソン大会の支援	目 標	(大会の支援)	()	()	()	
		実 績	大会の支援				
達成状況説明	3km、5km、10km、ハーフのコースを設定し、大会に係る備品や消耗品等を整備した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	年度	年度	目標値(年度)
	参加者:900人	目 標	()	(900名)	()	()	()
		実 績		523名			
	進捗状況説明	・申込人数が556名で、当日参加者が523名であった。(内訳 3km:39名、5km:20名、10km:222名、ハーフ:242名) ・定員数を目標とし900名と設定していたが、周知期間が短かったことや第1回目であったので大会認知度が低かったこと、また、同日に他市町村で同様のイベントがあったこと等が目標を達成できなかった主な要因となっている。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・今回が初開催で認知されていない大会であるので、周知期間や申込期間を長く設定し、認知度を高める必要がある。 ・初開催であったので、試行錯誤しながらであったが、今回の開催である程度の流れは把握できたので、第一に安全性を確保しつつ、参加者の増員を図る必要がある。	・周知方法をホームページや新聞等に留まらず、マラソン雑誌等にも載せることで認知度を上げ、参加者の増員に繋げる。 ・本村の宿泊施設の収容数も考慮しながら、受入体制の整備を検討し、大会規模の適正を図る。 ・レース後の交流、レース以外での付加的な要素で、参加者が楽しめるような大会にし、リピーター確保に繋げる。
今後の取り組み方針		
・より多くの参加者を募ると同時に本村の受入体制をより強化することが必要である。反省事項を活かしながら、トライアスロンと同様に継続性のある大会していく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>11,000</td><td>11,000</td><td>8,800</td><td>2,200</td><td>0</td></tr> </tbody> </table> 伊是名村 交付金対象事業費 11,000千円 補助金 11,000千円 伊是名尚円王マラソン大会実行委員会 11,000千円 運営費補助 ふれあいパー ティー出演料、 音響・照明、 広告料、 備品購入費、 安全強化備品					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	11,000	11,000	8,800	2,200	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
11,000	11,000	8,800	2,200	0										
資金使途の 流れ、 点検 評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
○	○	支出先の選定方法は妥当か。	○実行委員会形式の団体への支出であり、選定については妥当であったと考える。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模について事業内容に見合っており適正であった。											
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途目的について、支出調書・書類により確認を行い適正であった。											

市町村名	伊是名村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-①	伊是名村自動車航送コスト負担軽減事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-ア	
担当部課名	商工観光課	事業実施(予定)年度	平成24年度～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	交通・生活コストの低減	
事業内容	離島の定住促進を図るため、沖縄本島の今帰仁村運天港とを結ぶフェリーの自動車航送運賃を軽減する。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	7,209	9,830	11,757	11,757	11,982
		(b) 予算現額	7,209	11,130	11,923	12,028	13,060
		(c) 増減額 (b-a)	0	1,300	166	271	1,078
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—
	A. 計 (b+d)		7,209	11,130	11,923	12,028	13,060
	B. 執行済額		6,934	11,006	11,923	12,028	13,060
	うち交付金充当額		5,547	8,804	9,538	9,622	10,448
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率 (%) (B/A)		96.2%	98.9%	100.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		年間利用台数が、年々増加傾向で推移しており、当初予定よりも増加したため1,078千円増額している。活動目標の達成状況どおり実施し予算執行も適正と考えられる。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	自動車航送コスト支援の実施	目 標	(3,500台)	(4,000台)	(負担軽減)	(負担軽減)	
		実 績	4,894台	5,395台	負担軽減	負担軽減	
達成状況説明	村内住民の沖縄本島との唯一の交通手段である船舶において、車輛航送運賃の助成を行ったことで、定期的に本島との往来が出来るようになり、教育・医療・福祉の充実と定住条件の向上・村民の負担軽減に寄与した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(33年度)
			目 標	(5,000台)	(5,000台)	(5,733台)	(6,000台)
	自動車航送コスト負担軽減数:5,733台		実 績	5,705台	5,755台	6,294台	
	進捗状況説明	・目標台数は5,733台としたが、コスト負担軽減事業の周知・広報及び利用促進を図ることで、6,249台と目標を上回ることができた。 ・村内住民の沖縄本島との唯一の交通手段である船舶の車輛航送運賃の助成を行うことで村民の負担軽減に寄与した。 ・今後も本事業を活用し、年間利用台数6,000台を平成33年までに維持できるよう推進していき、本村のさらなる定住条件の向上を図る。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・土日・祝祭日や大型連休になると船舶の利用者が増え、旅客・自動車航送券の発券所が混雑し船の定時運航に支障をきたす場合がある。 ・平成24年度から事業を実施しているが、利用申請に必要な離島住民割引運賃カードの有効期限切れ(3年)により窓口業務が混雑した。	・負担軽減申請書を乗船券購入時に提出しなければならないが、発券所前にて申請書に記入する住民が多数おり、時間のロスに繋がることから事前に申請書に記入のうえ乗船券を購入するよう指導するとともに広報で周知徹底を図る。 ・発券所の混雑解消を目的としたQRコードシステム導入について検討する。 ・離島住民割引カードの更新を防災行政無線及び村広報誌等で周知することと有効期限切れカード所持者の解消に努める。
今後の取り組み方針		
離島住民割引カードQRコードシステムを導入することにより、負担軽減申請書の提出を省略することが可能となり、発券業務の混雑解消に繋がることから、その導入について検討していく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)																
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">総事業費</th><th rowspan="2">交付対象事業費</th><th>交付金</th><th>市町村</th><th rowspan="2">交付対象外経費</th></tr> <tr> <th>充当額</th><th>負担金</th></tr> <tr> <td>54,494</td><td>13,060</td><td>10,448</td><td>2,612</td><td>41,434</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金	市町村	交付対象外経費	充当額	負担金	54,494	13,060	10,448	2,612	41,434
総事業費	交付対象事業費	交付金	市町村	交付対象外経費												
		充当額	負担金													
54,494	13,060	10,448	2,612	41,434												
伊是名村 【一般会計】 交付対象事業費 13,060 千円 伊是名村船舶運航事業 特別会計へ繰出 繰出 → 伊是名村 【船舶運航事業特別会計】 1台あたり助成額(2,090円) 総事業費 54,494 千円 (41,434千円+13,060千円) 6,249台×2,090円＝ 13,060 千円 助成分を一般会計へ請求 ← 請求 【住民キップ購入】 6,249台 受益者負担(交付対象外経費) 41,434 千円																
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明													
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○船舶運航事業特別会計において、自動車航送券の発券及び集計を取り扱っていることから支払先は妥当と考えられる。													
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○住民が航送券を購入した実績で事業を行っていることから適正な予算規模と考えられる。													
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○助成率は3割足らずで、7割強を受益者が負担していることから、負担関係は妥当であると考ええる。													
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については確定時において支出等に関する書類により確認。適正であった。													

市町村名	伊是名村						
平成 2 8 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-②	妊婦健診渡航費助成事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-イ	
担当部課名	住民福祉課	事業実施(予定)年度	平成24年度～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上 Ⅲ-9	
事業内容	離島ハンデを克服し、定住条件を整備するため、14回の妊婦健康診査時の交通費及び宿泊費、36週以降の滞在時の宿泊費の一部を支援する。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	469	1,797	1,433	1,513	1,366
		(b) 予算現額	469	1,097	1,433	1,513	663
		(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 700	0	0	▲ 703
		(d) 前年度繰越額	—	—	—	—	—
		A. 計 (b+d)	469	1,097	1,433	1,513	663
	B. 執行済額		369	840	840	1,047	470
	うち交付金充当額		295	672	672	837	375
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率 (％) (B/A)		78.7%	76.6%	58.6%	69.2%	70.9%
予算の状況の説明		妊婦健診等に要する渡航費・交通費及び宿泊費の助成額について、対象人数を7人で1人あたり14回の健診を想定していたが、13人の対象者で1人あたり平均7回となったため、703千円を減額し、また、妊婦付添人の実績が皆無であったことから470千円の執行額に留まった。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	妊婦健診に要する経費支援の実施		目 標 (助成の実施)	(助成の実施)	(助成の実施)	(助成の実施)	
			実 績	実施	実施	実施	
	達成状況説明	産婦人科医がいなかったため本島の医療機関を利用しており、日帰りとなると移動にかかる妊婦への肉体的・精神的負担が懸念される。妊婦の経済的な軽減を図るという点においては初期の目的を達成できている。今後多くの妊婦が活用出来るよう広報活動を充実させたい。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	妊婦健診に要する経費の支援件数: 98件		目 標 ()	(168)	(168)	(98)	()
			実 績	118	102	93	
	進捗状況説明	母子手帳交付時に事業の説明を行ったことで事業周知が図られており、98件の目標に対し93件と目標を概ね達成できた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・島から本島への交通手段は大概が自家用車を利用しているので、航送運賃について助成できないかという要望がある。 ・妊婦付添人に対する助成の周知が徹底されていなかった。	・妊婦のニーズに応えるために車航送運賃の助成をし、妊婦の利便性の向上を目的とした支援について検討していく。 ・知人宅や親族の家に宿泊する場合についても定額の助成をし更なる経済負担の軽減を図りたい。 ・妊婦付添人に対する助成があるということを、母子手帳交付時に説明する必要がある。
今後の取り組み方針		
妊婦の健康保持増進を図る目的で、健診結果に基づき妊婦の健康指導を実施しており、産婦人科のない本村にとっては、本島までの妊婦健診にかかる経済的負担、精神的負担の軽減が図られていることから、今後も引き続き事業を実施していく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>663</td><td>470</td><td>375</td><td>95</td><td>193</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	663	470	375	95	193
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
663	470	375	95	193										
伊是名村 663千円 補助金 663千円 妊婦 663千円 (船賃、車賃、宿泊費)														
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○母子健康手帳が交付され、村内に住所を有している妊婦に対して補助しており、妥当である。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○健診回数に合わせて予算を減額したことから、適正である。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○助成については、船賃・交通費・宿泊費のみであり、それ以外は対象者が負担しており、妥当である。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○医療機関の受診証明書及び船賃の領収書・宿泊先の領収書の添付書類を確認し適正に支出している。											

市町村名	伊是名村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-③	人工透析医療受給者助成事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-イ	
担当部課名	住民福祉課	事業実施(予定)年度	平成24年度～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上 Ⅲ-9	
事業内容	人工透析受給者の通院医療の安定化を図るため、医療受診に要する本島への交通費及び宿泊費を支援する。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額	671	3,157	2,719	2,360	1,959
		(b)予算現額	671	1,857	1,619	998	326
		(c)増減額(b-a)	0	▲1,300	▲1,100	▲1,362	▲1,633
		(d)繰越額	—	—	—	—	—
	A. 計(b+d)		671	1,857	1,619	998	326
	B. 執行済額		377	1,548	1,442	845	326
	うち交付金充当額		301	1,237	1,153	675	260
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		56.2%	83.4%	89.1%	84.7%	100.0%
予算の状況の説明		当初は3人の受療者がいたため、その分を予算計上していたが、1名減になったほか、主に病院の送迎車両を利用したことから車賃が大幅に不要となったことに伴い、1,633千円の減額となっている。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	人工透析に要する経費支援の実施	目 標	(助成の実施)	(助成の実施)	(助成の実施)	(助成の実施)	
		実 績	実施	実施	実施	実施	
達成状況説明	事業実施によって受療者の経済的・精神的不安が解消され、治療に専念することができた。 平成28年度人工透析医療受療者:5名(2名本島で治療中。本村より受療者3名。)						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	人工透析に要する経費の支援人数 3人	目 標	()	(4)	(2)	(3)	()
		実 績		3	3	3	
	進捗状況説明	人工透析受療者に本事業の説明を行い助成を実施したことにより、3名の受療者が本事業を活用し、船賃・交通費・宿泊費の経済的不安の解消が図られている。当初対象者を3名で見込んでいたが、年度途中で1名減となり2名の対象となったが、年度末に1名追加となったため、3名の実績となった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・現在治療中の対象者は高齢者が多く、徐々に状態が悪化し、日常生活の支援も必要となり、福祉・医療サービスへとつなぐことが必要なケースもあった。 ・人工透析に加え、別の疾患もあることから、移動に支障をきたす対象者もいる。 ・台風時や海上時化等による急な船舶欠航もあり、防災無線による放送で確実に周知を図る必要がある。	・相談窓口を明確にし、定期的な保健指導の機会を設けていく。 ・必要に応じ、船員による車いすでの付添や、港までの送迎を活用し、負担軽減に努める。 ・フェリードック時の船便変更時には、週末に一度帰ってきた際に助成を申請してもらい、早めに助成を行うことで負担軽減を図る。
今後の取り組み方針		
更なる事業促進により、人工透析医療患者の負担を軽減することで、治療に専念することが出来、また移動により心身の疲労も軽減することが出来る。今後も公平安心な補助を行うために、人工透析医療が必要になった場合の確実な情報提供、補助対象審査をスムーズに行えるよう、手続き方法について分かりやすく説明し、保健指導等も行っていく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>326</td><td>326</td><td>260</td><td>66</td><td>0</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	326	326	260	66	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
326	326	260	66	0										
伊是名村 326千円 補助金 326千円 人工透析医療受給者 326千円 ①船賃②車賃 ③宿泊費に係る経費の補助														
資金の流 れ、費 目・ 使 途 の 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○村内に住所を有している透析患者に対して補助しており、妥当である。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は適切だったと考える											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○助成に関しては船賃、交通費、宿泊費のみであり、妥当である。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については事業目的から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。											

市町村名	伊是名村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-④	火葬場整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-イ	
担当部課名	建設環境課	事業実施（予定）年度	平成27年度～28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上 Ⅲ-9	
事業内容	住民が安心して定住できる環境を整備するため、火葬場の機能を強化する。						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）	予算の状況		27年度	28年度	年度	年度	年度
		(a) 当初予算額	4,860	89,669			
		(b) 予算現額	4,644	96,513			
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 216	6,844			
		(d) 繰越額					
	A. 計 (b+d)	4,644	96,513				
		B. 執行済額	4,644	95,572			
		うち交付金充当額	3,715	76,457			
		次年度繰越額					
	執行率（％）(B/A)	100.0%	99.0%				
予算の状況の説明	工種の追加等により6,844千円増額した。 当初計画していた事業はすべて実施しており、変更計画において追加した事業もすべて実施している。						
活動目標（指標）及び達成状況	H28活動目標（指標）		達成状況				
			27年度	28年度	年度	年度	
	工事監理業務の実施 火葬場増改修工事の実施 火葬炉整備工事の実施 遺体用保冷库購入の実施 非常用発電機購入の実施	目 標	（ 増改修工事設計 ）	（ 実施 ）	（ ）	（ ）	
		実 績	増改修工事設計の実施	実施			
達成状況説明	火葬場増改修工事及び火葬炉整備工事を実施した。 火葬炉増改修工事に伴う工事監理業務を実施した。 備品購入（遺体用保冷库、非常用発電機）を実施した。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H28成果目標（指標）		基準値（年度）	27年度	28年度	年度	目標値（年度）
	工事監理業務の完了 火葬場増改修工事の完了 火葬炉整備工事の完了 遺体用保冷库購入の完了 非常用発電機購入の完了	目 標	（ ）	（ 定住条件に大きく寄与 ）	（ 完了 ）	（ ）	（ ）
		実 績		設計業務の完了に留まった	完了		
進捗状況説明	火葬場増改修工事及び火葬炉整備工事の完了。 火葬炉増改修工事に伴う工事監理業務の完了。 備品購入（遺体用保冷库、非常用発電機）の完了。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	本村の火葬場は整備後30年が経過し、火葬炉の老朽化が著しく使用時に支障をきたしていた。しかし、建屋については老朽化は少なく、改修による延命化を図ることができると判断できたため、新たな火葬炉の増築と既存建屋の改修を行うため、火葬場増改修工事を行った。また、平成27年度の改善余地の検証時において課題としてあげた災害時における火葬業務体制の機能強化として、遺体用保冷库及び非常用発電機の購入ができた。	今後は施設の適切な維持管理を実施することが定住促進に寄与するものと考えられる。
今後の取り組み方針		
増改修工事、火葬炉整備及び備品購入により機能が強化された火葬場の活用により、安心して暮らせる島づくりを進めることで、定住条件の向上に取り組む。		

資金の流れ				
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
		総事業費	交付対象事業費	交付金充当額
		95,572	95,572	76,457
				市町村負担金
				19,115
				交付対象外経費
				0
伊是名村 95,572千円 工事請負費 88,509千円 委託料 3,003千円 備品購入費 4,060千円 (株)伊是名建設 33,969千円 克電気工事 4,968千円 南西空調設備(株) 4,860千円 (株)開邦工業 44,712千円 リアル設計 3,003千円 丸喜(株) 2,419千円 (株)オカノ 1,641千円 伊是名村火葬場増改修工事(建築) 伊是名村火葬場増改修工事(電気) 伊是名村火葬場増改修工事(機械) 伊是名村火葬場増改修工事(火葬炉設備) 伊是名村火葬場増改修工事 監理業務 遺体用保冷库 ディーゼルエンジン発電機				
資金 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目	評価	点 検 項 目		評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○委託業者、工事請負業者及び備品購入業者は、指名競争入札で選定しており、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		○予算については、建築設計業務等積算基準、公共建築工事積算基準、見積等に基づき積算したことから、変更計画により追加した事業も含め、不用額が1%以内であり適正な規模であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。		○費目・使途は事業目的にのみ限定したことから妥当であったと考える。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	伊是名村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑤	地域活動拠点活性化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(7)-イ	
担当部署名	農林水産課	事業実施(予定)年度	平成27年度～30年度		沖縄振興基本方針該当箇所	交流と供創による農山漁村の活性化 Ⅲ-9	
事業内容	地域活動の活性化を図るため、拠点施設を整備する。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	5,500	19,800			
		(b) 予算現額	4,536	10,243			
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 964	▲ 9,557			
		(d) 繰越額	—	—			
		A. 計 (b+d)	4,536	10,243			
	B. 執行済額		4,536	10,243			
	うち交付金充当額		3,628	8,194			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率 (%) (B/A)		100%	100%			
予算の状況の説明		当初、実施設計業務も含めた積算となっており過大であったため、9,557千円の減額が生じた。事業内容は達成しているので適正であったと考える。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	年度	年度	
	地域活動拠点施設基本設計業務の実施	目 標	(委託実施)	(委託実施)	()	()	
		実 績	委託実施	委託実施			
達成状況説明	地域活動拠点施設基本設計業務を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値 (年度)	27年度	28年度	年度	目標値 (年度)
	基本設計の取りまとめ	目 標	()	(計画策定)	(設計完了)	()	()
		実 績		計画策定	設計完了		
	進捗状況説明	地域活動拠点施設基本設計業務の完了。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・地域行事(芸能祭)等伝統文化、特色ある食文化を継承していく拠点活動施設整備を目的とする事を踏まえ、地域の実態活動内容に即した整備計画と捉える事が、最大の効果発現と思慮されるため、地域意向を汲み取る事が重要課題である。 ・昨今の建築単価の上昇、人手不足等を考慮し、慎重に発注計画を立てる必要がある。	・今年度は、事業説明会及び建設委員会との意見交換会を3回開催し、今回基本設計を実施した。基本設計を基に実施設計していくが、拠点施設を整備するにあたり地域の建設委員会との調整を密にしていける必要がある。 ・昨今の人手不足による入札不調・不落等及び、今後の東京オリンピック特需による更なる人手不足等を鑑み、発注計画の見直しを検討する必要がある。
今後の取り組み方針		
平成28年度において実施した基本設計を基に、次年度以降は実施設計及び建築工事を行うが、適時な発注に努める。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10,243</td><td>10,243</td><td>8,194</td><td>2,049</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	10,243	10,243	8,194	2,049	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
10,243	10,243	8,194	2,049	0										
伊是名村 10,243千円 委託料 10,243千円 (株)丸島建設コンサルタント 10,243千円 基本設計業務														
資金の流 使途の流 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
○	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、指名競争入札で選定しており、妥当であったと考える。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算については、建築設計業務等積算基準及び設計業務委託等技術者単価に基づき積算したことから適正であったと考える。											
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途は事業目的にのみ限定したことから妥当であったと考える。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途は事業目的にのみ限定したことから妥当であったと考える。											

市町村名	伊是名村							
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	2-⑥	離島食品・日用品輸送費等支援実施事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-7		
担当部署名	商工観光課	事業実施(予定)年度	平成28年度～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	交通・生活コストの低減		
事業内容	離島における割高な生活コストの低減を図るため、沖縄本島から本村へ輸送される食品や衣類・履物、日用品、医薬品、保健医療用具・器具、家庭用電気製品等の輸送経費及び作業経費の支援を実施する。							
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			28年度	年度	年度	年度	年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	7,655					
		(b) 予算現額	2,681					
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 4,974					
		(d) 繰越額	—					
		A. 計 (b+d)	2,681					
	B. 執行済額		2,681					
	うち交付金充当額		2,144					
	次年度繰越額		0					
	執行率 (%) (B/A)		100%					
予算の状況の説明		当初、類似離島市町村の実績を考慮して予算措置していたが、7月からのスタートになったこと及び見込み登録店舗数の減により予算を減額した。						
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況					
			28年度	年度	年度	年度		
	食品、衣類、履物、日用品、医薬品、保健医療用具、器具、家庭用電気製品等の輸送経費及び作業経費の支援	目 標	(負担軽減)	()	()	()	()	
		実 績	負担軽減					
達成状況説明	村内住民の生活物資ルートである船舶航路事業において、航路貨物取扱業者への貨物運賃輸送経費の助成を行ったことで、本島と比較して割高な生活コストの軽減に努め、定住条件の向上・村民の負担軽減に寄与している。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(27年度)	28年度	年度	年度	目標値(年度)	
	沖縄本島と離島の生活必需品等の価格差(沖縄本島を100とした場合の指数)の縮小	目 標	()	(価格差縮小)	()	()	()	
		実 績		価格差縮小				
	【参考指標】 H27指標:129.5	目 標	(129.5)	(129.5)	()	()	()	
		実 績		126.9				
	進捗状況説明	・H27年指標(129.5)よりもH28年では(126.9)と価格差は縮小しているが、品目によっては拡大しているものもある。 ・今後も本事業を有効活用し、価格差縮小につながるよう継続して推進し、本村のさらなる定住条件の向上を図る。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・本年度は事業開始年度であり、貨物取扱事業者の事務的な協力により円滑的に推進されているといえる。	・事務作業について慣れてきたところで、円滑的に事業推進されていると考え るが、事務的に更に改善向上の余地はないか更に検証して推進していく。
今後の取り組み方針		
・本事業の周知を行い村内の未登録事業者の加入推進を図り、住民の生活コスト低減に努めていく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象 事業費</th><th>交付金 充当額</th><th>市町村 負担金</th><th>交付対象 外経費</th></tr> <tr> <td>2,681</td><td>2,681</td><td>2,144</td><td>537</td><td>0</td></tr> </table> 伊是名村 【一般会計】 交付対象事業費 2,681 千円 伊是名村船舶運航事業 特別会計へ繰出 伊是名村 【船舶運航事業特別会計】 交付対象事業費 2,681 千円 一般会計へ請求 【航路貨物輸送取扱業者】 運天港 → 仲田港 【北部港運株式会社】 (貨物運賃輸送経費の請求) 2,681 千円 日用品・生活物資等の輸送 村内小売店(登録事業者) 5店舗 販売 村民等 繰出 請求 補助 請求 登録申請等					総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費	2,681	2,681	2,144	537	0
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費										
2,681	2,681	2,144	537	0										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
○	○	支出先の選定方法は妥当か。	○島内への生活輸送物資の唯一の輸送ルートである航路の貨物輸送取扱業者であり妥当と考えられる。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○島内への貨物輸送実績で事業を行っていることから適正な予算規模と考えられる。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○沖縄本島との価格差是正のために貨物輸送に対して補助を行っており、結果的に住民の生活コスト低減へ繋がるもので妥当であるとする。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については、貨物輸送事業者の伝票書類を月締めで2重に検収確認しており、適正であったといえる。											

市町村名	伊是名村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑦	地域防災計画策定事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(4)-イ	
担当部署名	総務課	事業実施(予定)年度	平成28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	災害に強い県土づくりと防災体制の強化		
事業内容	地域の特性をふまえて、村民や観光客の安全安心等を確保するため、地域防災計画を策定する。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			28年度	年度	年度	年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	7,809				
		(b)予算現額	7,587				
		(c)増減額(b-a)	▲222				
		(d)繰越額	—				
		A.計(b+d)	7,587				
	B.執行済額		7,587				
	うち交付金充当額		6,069				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		100%				
予算の状況の説明		入札残により、222千円を減額した。 事業内容は達成しているので適正であったと考える。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	年度	年度	年度	
	地域防災計画策定業務の実施	目標	(実施)	()	()	()	
		実績	実施				
達成状況説明	地域防災計画策定業務を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	年度	年度	目標値(年度)
	地域防災計画の策定	目標	()	(計画策定)	()	()	()
		実績		計画策定			
	進捗状況説明	地域防災計画策定業務の完了。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	東日本大震災後、災害対策基本法の改正があった。また、近年の大地震、大雨、土砂崩れ等、災害が多発していることを受け、現状にあった地域防災計画の見直しが必要となっていた。 地域防災計画を策定していくなかで、防災マップに正確な海拔表示が記載できなかった。また、道路等にも海拔表示を設置していないため、今後村民や観光客等が本村を訪れた際の安全安心を確保するために必要である。	海拔表示は、平成29年度以降、補助金等活用し整備していく予定である。
今後の取り組み方針		
・今後、法改正等がある場合は、その都度防災計画も見直しを実施する。また、他自治体の動向を把握しながら、本村における現状の課題を洗い出し、必要に応じた整備を実施することで、村民及び観光客等が安全安心で過ごせる村づくりを目指していく。		

資金の流れ														
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7,587</td><td>7,587</td><td>6,069</td><td>1,518</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	7,587	7,587	6,069	1,518	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
7,587	7,587	6,069	1,518	0										
<pre> graph LR A[伊是名村 7,587千円] --> B[委託料 7,560千円] A --> C[報酬 11千円] A --> D[旅費 16千円] B --> E[株式会社 沖縄計画機構 7,560千円] C --> F[委員報酬(委員2人) 11千円] D --> G[費用弁償(委員3人) 16千円] </pre>														
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算については、複数社から見積を徴収し積算したことから適正であったと考える。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊是名村							
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	2-⑧	伊是名村総合的なサービス提供体制強化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(3)-7		
担当部課名	住民福祉課	事業実施(予定)年度	平成28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	高齢者が住み慣れた地域で生き生きと暮らせる環境づくり Ⅲ-4		
事業内容	村内に居住する独居老人、老夫婦世帯及び障害児等を対象とした総合的な福祉サービス事業を展開するため、送迎用車両及び地域訪問用車両を導入する。							
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			28年度	年度	年度	年度	年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	4,770					
		(b) 予算現額	4,770					
		(c) 増減額 (b-a)	0					
		(d) 繰越額	—					
		A. 計 (b+d)	4,770					
	B. 執行済額		4,766					
	うち交付金充当額		3,813					
	次年度繰越額		0					
	執行率 (%) (B/A)		100%					
予算の状況の説明		計画どおり執行でき、適正であったと考える。						
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況					
			28年度	年度	年度	年度	年度	
	送迎車両:1台 巡回訪問車両:1台	目標	(車両の購入)	()	()	()	()	
		実績	車両の購入					
達成状況説明	村内に居住する独居老人、老夫婦世帯及び障害児等を対象とした総合的な福祉サービス事業を展開するため、送迎用車両1台及び地域訪問用車両1台を購入した。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	年度	年度	目標値(年度)	
	介護予防事業のため週3回の送迎一人暮らし世帯等の週5回の巡回	目標	()	(送迎週3回 巡回週5回)	()	()	()	
		実績		購入のみに留まった				
	進捗状況説明	福祉サービス充実を図る為、車両2台を購入した。車両を使用する社会福祉協議会と車両の選定についての協議に時間を要したこと、年度末の納入となり、実績としては購入のみとなった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	車両の納車が年度末になったため、今年度においては、他団体から借用し事業を実施したが、借用日の重複・調整等で他団体へ迷惑をかけた。 介護予防事業の送迎や巡回訪問の用途に加え、住民の福祉ニーズに柔軟に対応できるよう、体制を整える必要がある。	送迎車両、巡回訪問車両として導入されたが、見守りボランティアや住民主体の介護予防活動、地域包括ケアシステムに資する活用例がないか関係機関と協議を行い、福祉活動の更なる充実を図る。
今後の取り組み方針		
・購入した福祉車両を用いた活動紹介を行い、高齢者や障害者が住みやすい地域づくりの普及啓発・周知活動を行う。		

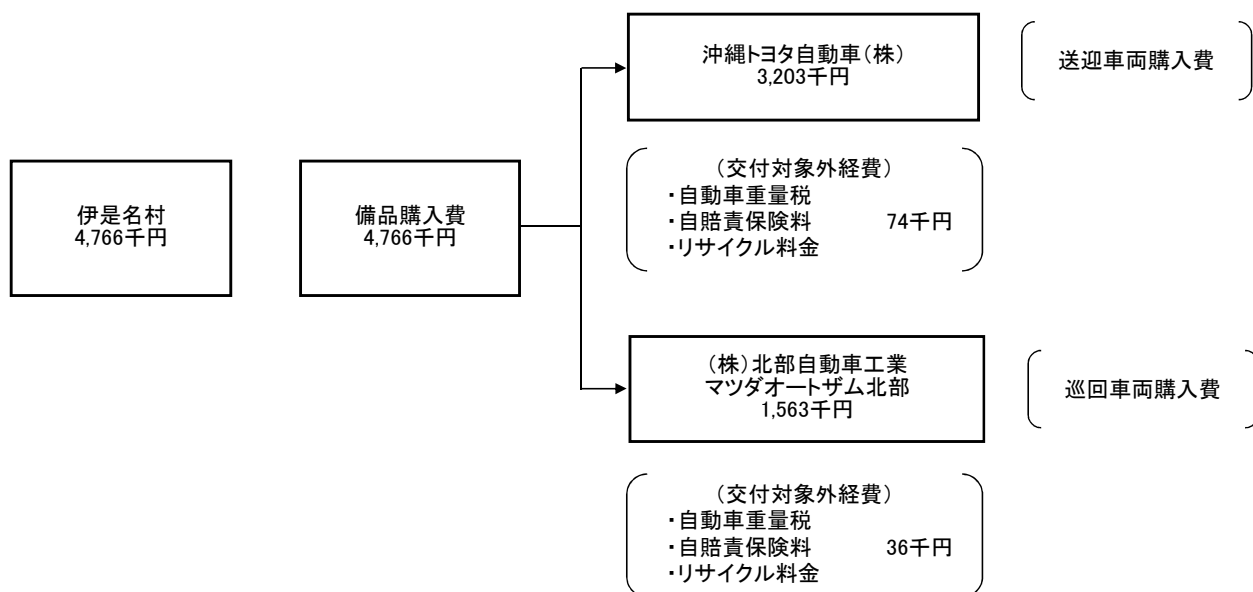
今後の取り組み方針

- ・購入した福祉車両を用いた活動紹介を行い、高齢者や障害者が住みやすい地域づくりの普及啓発・周知活動を行う。

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額		交付対象 外経費
		市町村 負担金		
4,876	4,766	3,813	953	110



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定については、指名競争入札により選定したので妥当であったと考える。 ○予算規模は、事業内容に見合っており適当であったと考える。 ○費目、使途については支出等に関する書類により確認し、適正であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊是名村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑨	高齢者福祉施設整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(3)-7	
担当部課名	住民福祉課	事業実施(予定)年度	平成28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	高齢者が住み慣れた地域で生き生きと暮らせる環境づくり		
					Ⅲ-4		
事業内容	本村で一カ所しかない高齢者福祉施設の需要増加による受入に対応するため、高齢者福祉施設を機能強化する。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			28年度	年度	年度	年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	6,500				
		(b) 予算現額	6,588				
		(c) 増減額 (b-a)	88				
		(d) 繰越額	—				
		A. 計 (b+d)	6,588				
	B. 執行済額		6,588				
	うち交付金充当額		5,270				
	次年度繰越額		0				
	執行率 (%) (B/A)		100%				
予算の状況の説明		積算諸元等の変更により、88千円増額した。 事業内容を達成しているので適正であったと考える。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	年度	年度	年度	
	機能強化設計業務の実施		目 標 (実施)	()	()	()	
			実 績	実施			
達成状況説明	社会福祉法人へ補助し、設計業務を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値 (年度)	28年度	年度	年度	目標値 (年度)
			目 標 ()	(完了)	()	()	()
	実施設計完了		実 績	完了			
	進捗状況説明	社会福祉法人へ補助し、設計業務を完了した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	実施主体は社会福祉法人であり、設計業務は完了したが、工事発注にあたり、公共工事の建築基準等の知識が浅いので、適正に執行されているか確認する必要がある。	昨今の建築発注状況を勘案し、人手不足による工期の長期化を避けるため、早期に発注する必要がある。 適宜状況を確認し、適正に執行されているか確認、指導する必要がある。
今後の取り組み方針		
・平成29年12月に工事を完了し、平成30年3月までに必要備品を調べ、平成30年4月から施設を運用していく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6,588</td><td>6,588</td><td>5,270</td><td>1,318</td><td>0</td></tr> </tbody> </table> 伊是名村 6,588千円 補助金 6,588千円 社会福祉法人 いぜな会 6,588千円 機能強化設計業務					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	6,588	6,588	5,270	1,318	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
6,588	6,588	5,270	1,318	0										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定については、公益性の高い法人への補助であり妥当であったと考える。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、事業内容に見合っており適当であったと考える。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○今回受益者負担はなかったが、極めて公益性の高い法人であることから、妥当であったと考える。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については支出等に関する書類により確認し、適正であったと考える。											

市町村名		伊是名村						
平成 2 8 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	3-①	人材育成事業(日高小との交流事業)			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ		
担当部課名	教育振興課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心とたくましい体を育む教育の推進 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	沖縄と北海道という異なる生活圏で暮らす子ども達が、それぞれの地域を訪れ、その地域の自然や歴史、生活に触れ、体験学習・交流学習を通して友情を育むことで、広い視野と協調の精神を養うため、日高小との交流事業を実施する。							
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額 (b-a) (d) 繰越額 A. 計 (b+d)	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度		
		1,960	1,499	2,000	1,606	1,524		
		1,960	1,499	2,000	1,606	1,570		
		0	0	0	0	46		
		—						
	B. 執行済額		1,903	1,499	1,978	1,533	1,570	
	うち交付金充当額		1,522	1,199	1,582	1,226	1,256	
	次年度繰越額							
	執行率(%) (B/A)		97.1%	100.0%	98.9%	95.5%	100.0%	
	予算の状況の説明		複数社から見積を再徴収し積算したところ、当初予算額を上回ったため、事業費を増額した。大幅な増額変更ではないので適正であったと考える。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況					
			25年度	26年度	27年度	28年度		
	日高小学校との交流会参加人数 (児童11名、引率5名)	目 標	(22)	(児童19名 引率5名)	(児童12名 引率5名)	(児童11名 引率5名)		
		実 績	22	児童16名 引率5名	児童11名 引率5名	児童11名 引率5名		
			目 標	()	()	()	()	
		実 績						
達成状況説明	・沖縄とは異なる北海道の自然や生活に触れることで、子供たちの視野を広げ、自然体験や文化交流をととして互いの地域を理解し、それぞれの地域の自然や伝統文化の大切さを実感した。 ・日高町及び北海道の気候や文化・自然について事前学習を実施した。 ・事前に手紙での児童間の自己紹介の実施。 ・村の歴史や自然・文化等について事前に調べ、そのことを交流会等で発表した。 ・沖縄の伝統のエイサーなどを日高小の児童・地域の方々に披露して沖縄の文化を伝えた。 ・北海道で交流体験の報告会を開き、児童や地域住民に報告した。感想文・派遣写真等の展示も行った。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)	
	児童の協調の精神等の向上についてまとめた報告書の作成	目 標	()	()	()	(作成)	()	
		実 績				作成		
	【参考指標】		目 標	()	(児童19名 引率5名)	(児童12名 引率5名)	(児童11名 引率5名)	()
	日高小学校との交流会参加人数		実 績		児童16名 引率5名	児童11名 引率5名	児童11名 引率5名	
進捗状況説明	・交流・体験学習を実施し、報告書を作成した。 ・報告書の内容については、事業の趣旨、目的、方針、実施基準を明記している。役割分担や行程表も記載されており、児童との約束事や交流・体験学習のねらい等も記載されている。事業実施状況として出発式や体験学習、交流会等の写真も載せている。 ・村当局者や保護者向けに交流・体験学習の報告会を行った。報告会は児童が行い、交流・体験学習を通しての出来事、体験や反省等をグループ毎に発表した。							

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・事業を効果的かつ円滑に行う上で、両校の連携体制が重要になる。北海道での日程及び交流内容等を双方で綿密に練り上げ事業に望むことが必要である。 ・また、環境に違いがあるため、事前に危険予知活動など、安全対策に留意する必要がある。 ・団体で1つの施設に宿泊する為、担当または引率者は、施設マップにて避難通路の事前確認や打ち合わせを十分に行う。	・学校側と連携を図り、定期的な会議を開催し、事業の進捗状況及び内容等について共通理解を図る。 ・派遣後に引率者及び児童からアンケートを取り、アンケート結果から今後の活動内容の向上を図る。 ・日高小との手紙のやり取りなど派遣前から行い、交流実施時にはよりお互いの友情を深める様に、児童同士で事前交流を行い、より充実した交流につなげる。
今後の取り組み方針		
・本村には幼小中それぞれ1校ずつ設置されており、子ども達は幼少期から同じクラスで同じクラスメイトと中学校を卒業するまで学ぶことになる。そのことで、なれ合いの気持ちが強くなる傾向にあると思われる。また、離島という地域性から容易に他校との交流が行えないことから、永年継続してきた日高小との交流事業は、北海道の自然や文化、北国の生活を体験できるということで、子ども達の視野を広げ、将来の進路選択にも役立つものと考えられる。今後とも事業を継続し、島の将来を担う人材育成に寄与する。 ・事業は、日高小学校6年生と伊是名小学校6年生を対象に、互いの地域を訪れる相互交流事業として実施する。日高小学校は11月頃、伊是名小学校は2月頃日高小学校を訪れ、ウィンタースポーツ体験や学校訪問を行い、その中で伝統芸能等を相互に紹介し、それぞれの地域の自然や文化について学ぶ。		

資金の流れ														
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1,570</td><td>1,570</td><td>1,256</td><td>314</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	1,570	1,570	1,256	314	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
1,570	1,570	1,256	314	0										
伊是名村 1,570千円 → 委託料 1,570千円 → (株)ジャンボツアーズ 1,570千円 (平成28年度(第23次)伊是名村少年の翼派遣事業に係る業務 児童数:11名 引率者数:5名)														
資金の流 れ、費 用・ 使 途 の 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は3者から見積書を取り低価格の業者を選定したので妥当である。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については事業内容及び児童と引率者の人数から勘案して適正と考える。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○予め受益者負担として対象外経費項目を設けているので、受益者との負担関係については妥当である。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については事業目的に即し、真に必要なもののなか等、契約一件書類等において確認した。											

市町村名	伊是名村							
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	3-②	児童生徒島外諸教育活動支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(2)-7		
担当部課名	教育振興課	事業実施(予定)年度	平成24年度～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	教育機会の拡充		
						Ⅲ-3-(1)		
事業内容	離島である本村の児童生徒の島外スポーツ活動及び文化活動への積極的な参加を促すために、派遣費を支援する。							
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()							
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	1,236	3,134	4,230	4,230	1,760	
		(b) 予算現額	1,236	2,834	4,230	1,930	2,160	
		(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 300	0	▲ 2,300	400	
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—	
	A. 計 (b+d)		1,236	2,834	4,230	1,930	2,160	
	B. 執行済額		1,155	1,917	2,339	1,789	1,952	
	うち交付金充当額		923	1,533	1,871	1,431	1,651	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率 (%) (B/A)		93.4%	67.6%	55.3%	92.7%	90.4%	
予算の状況の説明		当初見込を上回る派遣回数があり、年度途中に予算不足が生じたため他事業より400千円流用した。不用額については、安価な宿泊施設を利用したための減によるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況					
			25年度	26年度	27年度	28年度		
	島外教育活動への派遣費の支援 活動団体数:7団体	目標	(65人)	(派遣)	(島外諸教育活動への派遣)	(島外諸教育活動への派遣支援)		
		実績	65人 (延べ233人)	派遣	島外諸教育活動への派遣(31回実施)	島外諸教育活動への派遣支援		
達成状況説明	児童生徒が島外諸教育活動に参加するため、離島という地理的条件のために生じる経費(船賃、宿泊費の一部)を補助することで派遣の支援につながっている。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)	
			目標	()	(86人)	(90人)	(300人)	()
	大会等派遣児童生徒数(累計):300人以上		実績	86人 (延べ473人)	78人 (延べ384人)	391人		
	進捗状況説明	本事業は、児童生徒に多くの学習・体験・交流する機会を与えられ、スポーツ技術の向上のみならず、コミュニケーション能力を醸成する機会になっており、児童生徒の健全育成、子育て支援にもつながっている。このため、児童生徒が大会等へ参加できる機会を増やしたことで、目標を上回る結果となった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	保護者の負担軽減が図られているが、宿泊費の負担が大きいことから毎年のように全額補助の要望がある。また、県外派遣についても補助対象とならないか要望がある。	宿泊費の補助増額については、補助の考え方、他市町村の派遣事業を参考にしながら検討していく。 本事業は、成果目標にも述べられているように、単にスポーツの技術力向上のための派遣ではなく、それ以外の教育的目的もあるため、学校外活動に積極的に活用するよう学校・団体と調整していく。
今後の取り組み方針		
県外派遣については、沖縄県代表として大会等へ参加する場合、補助対象となるよう要綱の見直しを行う。また、宿泊費については、上限額の見直しはせず、ホテルより安価な青年の家等を利用することで保護者の負担軽減を図れるよう団体や学校と連携し、児童生徒の健全育成に向け引き続き取り組んでいく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1,952</td><td>1,952</td><td>1,561</td><td>391</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	1,952	1,952	1,561	391	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
1,952	1,952	1,561	391	0										
伊是名村 1,952千円 補助金 1,952千円 学校・団体 (児童生徒・指導者) 1,952千円 〔 島外教育活動に係る船賃及び宿泊費 〕														
資金の流 使途の 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
○	○	支出先の選定方法は妥当か。	○学校及び団体をおとして児童・生徒に間接的に補助する形態であり、支出先は妥当。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については当初の計画通りであり、妥当と言える。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○離島ならではの船賃や宿泊費(上限あり)の経済的負担に対し助成するものであり、受益者との負担は妥当と言える。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○使途については事業目的達成の観点から支出等に関する書類により確認、適正であった。											

市町村名	伊是名村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-③	幼稚園預かり保育支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-イ	
担当部課名	教育振興課	事業実施(予定)年度	平成24年度～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	地域における子育て支援の充実	
事業内容	保護者が安心して仕事ができる環境を整備するため、幼稚園預かり保育の嘱託保育士を配置し、教育課程に係る教育時間終了後に預かり保育を実施する。						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	238	849	901	1,175	2,501
		(b) 予算現額	238	849	901	1,012	1,850
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	▲ 163	▲ 651
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—
	A. 計 (b+d)		238	849	901	1,012	1,850
	B. 執行済額		177	779	693	1,012	1,788
	うち交付金充当額		141	622	554	809	1,430
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率 (%) (B/A)		74.4%	91.8%	76.9%	100.0%	96.6%
予算の状況の説明		当初、保育士免許保持者2名を予定していたが保持者1名、無資格者1名を雇用したことにより他事業へ流用した。不用額については、運動会などを補助対象外経費としたことで生じたものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	保育士の雇用 2人	目標	(1人)	(1人)	(1人)	(2人)	
		実績	1人	1人	1人	2人	
達成状況説明	平成28年度よりすべての4歳児及び5歳児を対象にした、幼稚園2年教育がスタートし、これらを踏まえ、保育士を2名雇用した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	預かり保育を利用する幼児数 30人	目標	()	(15人)	(16人)	(30人)	()
		実績		7人	15人	25人	
	進捗状況説明	本年度からスタートした幼稚園2年教育においても、全ての幼児が預かり保育を行い、保護者が安心して仕事ができるための支援を継続して実施できた。しかし、全園児が利用することを目標にしていたが、家庭保育の希望者がいたため目標を下回った。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	村内には夫婦共働きの保護者が多く、教育課程に係る教育時間以後、幼児の面倒を見ることができない上に、村内には学童保育がない。 村内在住者で保育士免許を有しているものが限られ、人材確保が課題。また、もともと1クラスだった幼稚園を2年教育するために仕切りで区切った教室で保育が行われているため、幼児が発達段階に応じた指導ができるよう、施設の改善が求められている。	本村の実情から、預かり保育は必要であるとする。より充実した保育が可能になるためには、保育経験者の雇用、または採用も視野に検討が必要。
今後の取り組み方針		
本年度から幼稚園2年保育がスタートし、これまでの取り組みを生かしながら継続実施してきた。しかし、施設面において課題があるため、幼児が落ち着いた保育が受けられるよう、教育環境改善が必要。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1,929</td><td>1,788</td><td>1,430</td><td>358</td><td>141</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	1,929	1,788	1,430	358	141
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
1,929	1,788	1,430	358	141										
伊是名村 1,788千円 賃金 1,788千円 預かり保育職員 1,788千円 〔 預かり保育職員賃金 2名 〕														
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○雇用契約により保育士を任用しているため妥当と考える。 ○予算規模についても必要最小限の予算であり妥当である。 ○事業目的達成の観点から必要な賃金のための支出であり、書類等により確認、適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊是名村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-④	グッジョブ連携推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-7	
担当部課名	教育振興課	事業実施(予定)年度	平成27年度～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	児童生徒に自己理解・自己実現に向けた意欲の向上、また、目的意識の高揚や就業意識の向上を図るため、小学校ではジョブシャドウイング、中学校では職場体験等のキャリア教育を実施する。						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			27年度	28年度	年度	年度	年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	1,569	990			
		(b) 予算現額	1,120	850			
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 449	▲ 140			
		(d) 繰越額	—	—			
		A. 計 (b+d)	1,120	850			
	B. 執行済額		769	842			
	うち交付金充当額		614	673			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率 (%) (B/A)		68.7%	99.1%			
予算の状況の説明		当初、小学生のジョブシャドウイングは宿泊を予定していたが、学校行事等の都合により日帰りでの実施となったため変更申請した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	年度	年度	
	小学校:ジョブシャドウイングの実施 小学校5年生:15人 中学校:職場体験学習の実施 中学校2年生:19人	目 標	(2校)	(小学生15人 中学生19人)	()	()	
		実 績	2校	小学生16人 中学生17人			
達成状況説明		受け入れ事業所の協力により小学校が10月、中学校が9月に職場体験を実施することができた。 人数については、転入・転校により目標と実績に差異があるが、児童・生徒全員が参加した。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	年度	目標値(年度)
	児童生徒の目的意識の高揚や就業意識向上についてまとめた報告書の作成	目 標	()	(小5:11人 中2:16人)	(報告書 作成)	()	()
		実 績		小5:11人 中2:16人	報告書 作成		
進捗状況説明		小中学校において、児童生徒に自己理解・自己実現を図る意欲を向上させ、目的意識の高揚や就業意識の向上を高める活動を推進するため、家庭・地域・行政が互いに連携を強化し、小学校では地域教育資源の活用、中学校では勤労観・職業観を身に付けさせることなどを目的に、実施したそれぞれの活動を報告書としてまとめた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	職場体験等を終えてから児童生徒の、働くこと、仕事をするに關しての意識に変化が見られ、協調性の精神の高揚が図られている。 離島であるという特性から、人との接し方に課題があり、将来の職業や目標をしっかりと見極める目的意識を高める必要がある。 中学校の職場体験は、5日間の職場体験ウィーク期間中、1日目は村内各事業所での職場体験、2日目沖縄本島へ移動し各職場へのあいさつ回り、3日目・4日目の2日間が各職場での職場体験、5日目は帰島となっている。島外での職場体験について、3日間実施できないか検討が必要となっている。	日頃から人前で物怖じせず自分の考えを言えるよう、職場体験を意識した指導が必要。加えて挨拶や返事などを徹底指導し、事前学習や事後学習を通して勤労観・職業観が身に付けられるよう事業の充実を図っていく。職場体験期間については、より多くの経験や職業観を身につけさせるため、中学生については3日間、島外での職場体験が実施できるよう、学校側と日程調整する。
今後の取り組み方針		
職場体験を通して人間関係、勤労観や職業観を自ら学ぶことを通して、自己実現のために何が必要か、何をすれば良いかなどを児童生徒に意識づけていく。中学生について次年度は、より職業観を身に付けさせるため、島外での職場体験については移動日を除いて3日間確保して、より勤労観等を身に付けられるよう学校と日程調整する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>842</td><td>842</td><td>673</td><td>169</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	842	842	673	169	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
842	842	673	169	0										
伊是名村 842千円 旅費 765千円 → 旅費 765千円 (小学校(児童16名・引率者)旅費 中学校(生徒17名・引率者)旅費) 役務費 47千円 → 役務費 47千円 (職場体験活動保険料等) 使用料 30千円 → 使用料 30千円 (職場体験活動送迎車使用料)														

資金の 使途の 流れ、 点検 評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○保険料、使用料については、本村に一つしかない民間への支出であり妥当であった。 ○予算規模について児童生徒の対象人数からほぼ適正と考える。 ○使途については事業目的達成の観点から支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊是名村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-⑤	学習支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-7	
担当部課名	教育振興課	事業実施(予定)年度	平成25年度～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	児童生徒の学力向上を図るため、村営学習塾及び特別支援員教育支援員、学習支援員を配置する。						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 ■負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	6,323	7,628	7,342	14,968	
		(b) 予算現額	6,863	7,628	6,072	15,780	
		(c) 増減額 (b-a)	540	0	▲ 1,270	812	
		(d) 繰越額	—	—	—	—	
		A. 計 (b+d)	6,863	7,628	6,072	15,780	
	B. 執行済額		5,585	5,856	5,648	14,473	
	うち交付金充当額		4,467	4,684	4,518	11,578	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率 (%) (B/A)		81.4%	76.8%	93.0%	91.7%	
予算の状況の説明		当初予算額どおり適正に予算執行できた。増額分については、学習支援員を夏休み期間中活用してサマースクールを実施するための賃金。その賃金を補助対象外(＝交付対象外経費)としたことで執行率は91.7%にとどまった。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	学習支援員の確保:2人	目 標	(3人)	(3人)	(3人)	(2人)	
		実 績	3人	3人	3人	2人	
	週5日程度学習塾を開講	目 標	()	()	()	(週5日)	
		実 績				週3日	
達成状況説明	学習支援員については計画どおり2人雇用し小学校・中学校における教育活動の支援及び学習に遅れのある児童・生徒の支援を行った。また、学習塾については、民間事業者へ委託したが、事業費の関係で週3日の開講となったものの、民間学習塾のノウハウを取り入れた高い指導力と充実した内容で実施することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	学習塾利用生徒数:46人	目 標	()	(62人)	(55人)	(46人)	()
		実 績		63人	55人	43人	
	進捗状況説明	平成28年度から民間へ委託し、より高い指導力を持った人材が配置されることで学力向上を図った。中学1年～3年までの全生徒を対象に、主に国語・数学・英語を中心に学習指導を行った。目標の46人は前年度の小6～中2までの人数で算出し、その間、転出もあり実績は43人となったが、中学生全員が学習塾の申込みをし、参加した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化) 学習支援員については、これまでどおり小学校・中学校に配置し、きめ細かな学習支援活動により一定の効果が見られた。平成28年度より学習支援事業を民間に委託し、村営学習塾講師の配置、特別支援教育支援員を配置することを業務とした。塾講師が特別支援教育支援員を兼務することで、人材確保の負担が軽減された。	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点) 受講する生徒には、学習する目的について十分理解した上で申込みしているものとするが、塾で学習するためのマナーについては業者と連携して指導する必要がある。中学3年生については、早い段階で進路を決定し、目標達成に向けた学習姿勢・雰囲気づくりができるよう、民間業者・学校・行政で連携して推進する。
	今後の取り組み方針 平成28年度は、民間事業者へ委託したことで高い指導力と充実した内容で取り組めたことで、高校入試一次合格率100%を達成することができた。これは、生徒が受験できる高校を決定するための的確なアドバイスや受験までの取り組み方法について、民間のノウハウが生かされた結果と推測される。他方、中1や中2については、やる気を起こさせるための指導に課題が残った。次年度は、ICT機器も活用しながら、生徒が楽しく学習に取り組める環境を提供することにより、基礎学力の向上を図ってきたい。 学習支援員についても引き続き配置し、学習支援事業による特別支援員も活用しながら児童生徒の学習支援に取り組んでいく。また、夏季休業中のサマースクールについても、児童生徒の学習支援を目的とするため、今後は、補助対象として取り組んでいく。	

今後の取り組み方針

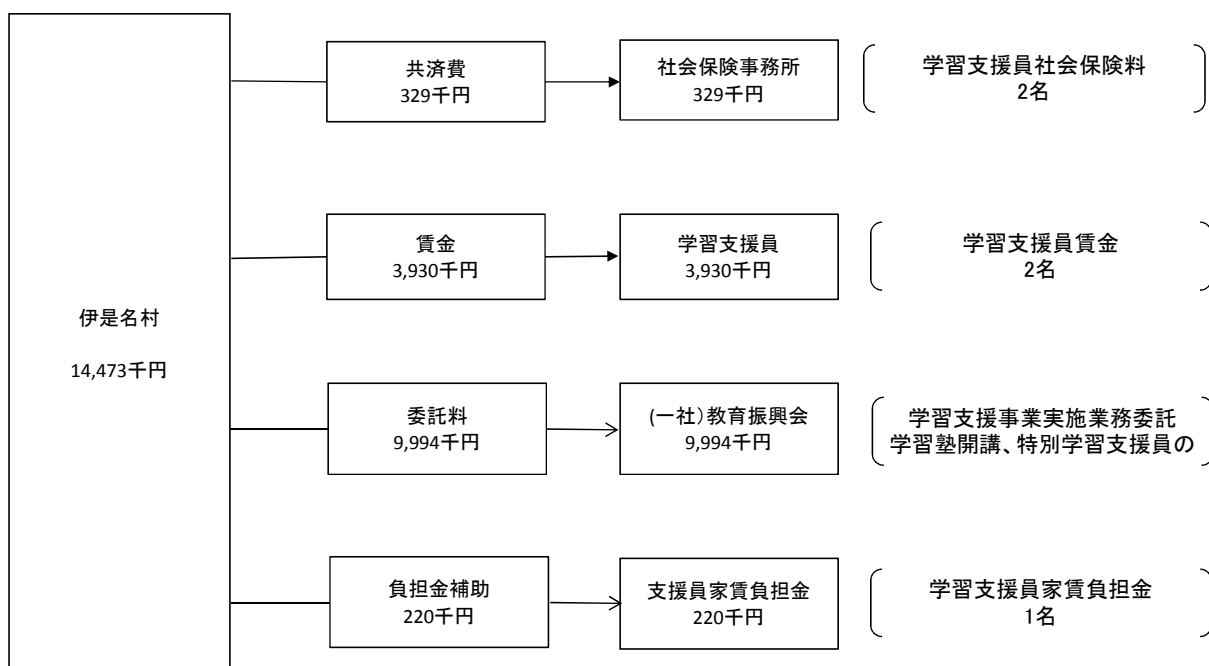
平成28年度は、民間事業者へ委託したことで高い指導力と充実した内容で取り組めたことで、高校入試一次合格率100%を達成することができた。これは、生徒が受験できる高校を決定するための的確なアドバイスや受験までの取り組み方法について、民間のノウハウが生かされた結果と推測される。他方、中1や中2については、やる気を起こさせるための指導に課題が残った。次年度は、ICT機器も活用しながら、生徒が楽しく学習に取り組める環境を提供することにより、基礎学力の向上を図ってきたい。

学習支援員についても引き続き配置し、学習支援事業による特別支援員も活用しながら児童生徒の学習支援に取り組んでいく。また、夏季休業中のサマースクールについても、児童生徒の学習支援を目的とするため、今後は、補助対象として取り組んでいく。

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額		交付対象 外経費
		市町村 負担金		
15,780	14,473	11,578	2,895	1,307



資金の 流れ、 費目、 使途の 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○学習支援事業については見積入札したものの1社のみの見積となったための随意契約であり、妥当と考える。 ○予算規模についてもほぼ見込みどおり執行し、適正である。 ○費目・使途については、事業目的達成の観点から必要な経費となっており、書類等により確認、適正と考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊是名村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-⑥	学校ICT推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-7	
担当部課名	教育振興課	事業実施(予定)年度	平成25年度～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進		
事業内容	基礎学力の定着及び学力の向上を図るため、電子黒板を整備する。						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	28年度	年度	年度	年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	19,795	9,655			
		(b) 予算現額	29,851	7,539			
		(c) 増減額 (b-a)	10,056	▲ 2,116			
		(d) 繰越額	0	0			
		A. 計 (b+d)	29,851	7,539			
	B. 執行済額		29,295	7,380			
	うち交付金充当額		23,436	5,903			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率 (%) (B/A)		98.1%	97.9%			
予算の状況の説明		当初予算額が発注前の設計段階で不用額が見込まれたため事業費を変更した。不用額については、入札残・交付対象経費などによる減となっている。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	28年度	年度	年度	
	中学校に電子黒板を設置:6台	目標	(小学校8台中学校3台)	(中学校6台)	()	()	
		実績	電子黒板8台PC55台	中学校6台			
達成状況説明	中学校において、生徒の理解力を高めるため電子黒板6台と周辺機器を整備した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	年度	年度	目標値(年度)
	電子黒板の活用講習:2回	目標	()	(2回)	()	()	()
		実績		1回			
	沖縄県到達度調査において地区平均を上回る。	目標	()	(到達度調査について地区平均を上回る)	()	()	()
		実績		検証不可			
	進捗状況説明	生徒の学習内容理解度を高めるため電子黒板を活用できるよう、講習会を2回予定していたが、導入が年度末になったこと、学校行事等の予定が組まれている、などの理由で簡単な操作方法1回のみの実施となった。また、電子黒板導入前に到達度調査を実施したため、地区平均を上回ったかについては、検証不可となっている。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	平成28年度で小学校・中学校に電子黒板が整備されたことで、小・中学校が連携して分かりやすい授業の実践に向けた活用が可能となった。学校の先生方も1年～3年で異動するため、新たに赴任してきた先生方を対象とした活用講習について学校・行政の連携が課題。	中学校のみならず、小学校においてもICT機器活用による分かりやすい授業の実践に向け、連携したICT機器活用の研修が必要と考える。電子黒板については、小学校・中学校の教師がどのように活用し、分かりやすい授業を実践しているのか、お互いに見学し情報交換できる雰囲気づくりに努めたい。引き続き、学校現場におけるICT機器の使用状況について、注視していく。
今後の取り組み方針		
電子黒板が学校現場でどのような場面で活用されているのか、専門家によるデータ収集と分析を行い、それを基に個別の指導を実施していく。また、合同研修会等を通して教師全員が分かりやすい授業の実践に向けたICT機器活用に取り組んでいく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金 充当額</th><th>市町村 負担金</th><th>交付対象 外経費</th></tr> <tr> <td>7,539</td><td>7,380</td><td>5,903</td><td>1,477</td><td>159</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費	7,539	7,380	5,903	1,477	159
総事業費	交付対象事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費										
7,539	7,380	5,903	1,477	159										
伊是名村 7,380千円 → 備品購入費 7,380千円 → 株式会社 エマオ 7,380千円 (電子黒板(6台)、PC(6台)等)														
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○発注先は、指名競争入札により選定しており、妥当であったと考える。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については必要最低限の予算であり妥当であると考える。											
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○事業目的達成の観点から必要な備品購入の支出であり、書類等により確認、適正であった。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊是名村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-①	伊是名村土づくり支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ウ	
担当部課名	農林水産課	事業実施(予定)年度	平成24年度～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	農林水産物の安全・安心の確立	
						Ⅲ-1-(6)	
事業内容	安定的な有機肥料の供給による土づくりの促進及び農作物の生産性の向上のため、沖縄本島からの堆肥購入費用及び輸送費用を支援する。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	6,197	16,793	16,807	35,120	43,900
		(b) 予算現額	6,197	14,112	16,827	32,960	53,976
		(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 2,681	20	▲ 2,160	10,076
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—
	A. 計 (b+d)		6,197	14,112	16,827	32,960	53,976
	B. 執行済額		6,195	14,112	16,827	32,960	53,976
	うち交付金充当額		4,956	11,289	13,461	26,368	43,180
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率 (%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		当初は2,500tの導入予定であったが、不足となったため500t分を増量し、10,076千円の増額となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	堆肥導入数量:3,000t	目標	(1,000t)	(確保)	(確保)	(3,000t)	
		実績	2,000t	確保	確保	3,000t	
達成状況説明	宜野座堆肥センターから堆肥原料(完熟品)を確保し、計画的に導入できた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	堆肥の散布を行うことによる地力の向上(散布目標面積 38ha)	目標	()	(2,000t)	(2,000t)	(配布面積 38ha)	()
		実績		1,027t	2,000t	配布面積 53ha	
	進捗状況説明	堆肥散布することで地力増強につながることを農家へ周知し、生産性の向上を図ることができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	台船確保が困難であり、フェリーでの輸送を行っているので、悪臭及び汚損による苦情を考慮する必要がある。 農家に対し、土づくりを促進することで生産性の向上が図れることを更に周知し、堆肥の散布を促す。	フェリーでの運搬を考慮し、次年度以降も引き続き完熟堆肥を導入する。 ほ場に堆肥を導入する時期は、夏植え前6月から8月、春植え前2月から4月に集中するので、その時期に合わせた運搬計画を立てる。
今後の取り組み方針		
・導入した堆肥施肥については、ほ場における適期が重なることから、早急に堆肥原料を導入し、夏植え、春植えほ場及び株出しほ場を中心に3月までに散布する。 ・堆肥散布することで地力増強につながることを引き続き周知し、更なる生産性の向上を図る。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>53,976</td><td>53,976</td><td>43,180</td><td>10,796</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	53,976	53,976	43,180	10,796	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
53,976	53,976	43,180	10,796	0										
伊是名村 53,976千円 補助金 53,976千円 伊是名村さとうきび糖業振興会 53,976千円 堆肥原料購入費に係る補助及び 堆肥輸送運搬に係る経費の補助														
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○見積もり徴収後、精査のうえ選定しており、妥当と考える。 ○予算規模は必要量と供給量との比較により妥当である。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であったと考える。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊是名村							
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	4-②	伊是名村優良繁殖雌牛導入促進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ウ		
担当部課名	農林水産課	事業実施(予定)年度	平成24年度～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	農林水産物の安全・安心の確立		
						Ⅲ-1-(6)		
事業内容	本村における畜産業の振興を図るため、計画的に優良繁殖雌牛を導入する肉用牛繁殖農家等に対し、導入費用の一部を支援する。							
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	28年度	年度		
	予算の状況	(a) 当初予算額	10,800	22,500	2,800			
		(b) 予算現額	10,800	16,920	4,732			
		(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 5,580	1,932			
		(d) 繰越額	—	—	—			
		A. 計 (b+d)	10,800	16,920	4,732			
	B. 執行済額		10,800	16,920	4,732			
	うち交付金充当額		8,640	13,536	3,785			
	次年度繰越額		0	0	0			
	執行率 (%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		当初7頭の導入予定であったが、近年の子牛価格の高騰や畜産農家の資金調達の都合で、次年度以降に導入予定である5頭分を前倒して導入したため、1,932千円の増額となっている。						
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況					
			25年度	26年度	28年度	年度		
	優良繁殖雌牛導入頭数:7頭		目 標	(導入)	(確保)	(7頭)	()	
			実 績	導入	確保	11頭		
達成状況説明	畜産農家と導入計画を協議し11頭の繁殖牛を導入した。優良な繁殖雌牛の導入及び村内飼養頭数の増加が図られ畜産業の振興に寄与した。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	28年度	年度	目標値(年度)	
			目 標	()	(50頭)	(7頭)	()	()
	H28年度:7頭(導入率91%)		実 績	38頭	11頭			
	進捗状況説明	畜産農家と導入計画を協議し、導入頭数を5頭増頭したため、目標達成することができた。農家のニーズに合った計画を設定でき、飼育頭数の増加、農家の経営安定及び畜産業の振興に寄与した。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	優良繁殖雌牛の導入費用の一部支援を行うことで、飼育頭数増加及び農家経営の安定が図られる。また、繁殖牛の減少に伴う堆肥原料不足を補うために次年度も計画的に繁殖牛を導入していく。 ここ数年子牛のセリ価格が高騰しているため、購入価格が高額となっている。	優良繁殖雌牛の価格が高騰している状況にあり、市場の動向により子牛価格も変動することから、農家への助成金額も市場に合わせて変更する必要がある。 当事業で衰退している零細農家の経営安定化を図ることは基より、新規農家の受け皿の確保、担い手農家等の確保等、当事業と併せて、本村畜産業振興のため牛舎建設または再整備を検討する。 新規就農予定者が参入しやすいように助成基準を設定することで担い手の確保・効率の更なる向上が期待できるのではないかと考える。
今後の取り組み方針		
・優良繁殖雌牛導入を継続して実施し、畜産農家のニーズに合った増頭を計画的に推進し、安定的な子牛の生産を目指すとともに飼育頭数増加と経営安定を確保し、本村の畜産振興、担い手の育成へ繋げていく。 ・優良繁殖雌牛購入費用に対し、50%の助成、上限400千円に設定し、12頭の優良繁殖雌牛を導入する予定である。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)																
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">総事業費</th><th rowspan="2">交付対象事業費</th><th colspan="2">交付金充当額</th><th rowspan="2">交付対象外経費</th></tr> <tr> <th>市町村負担金</th><th>交付金充当額</th></tr> <tr> <td>10,227</td><td>4,732</td><td>947</td><td>3,785</td><td>5,495</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費	市町村負担金	交付金充当額	10,227	4,732	947	3,785	5,495
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費												
		市町村負担金	交付金充当額													
10,227	4,732	947	3,785	5,495												
伊是名村 補助金 4,732千円 → 【畜産農家】 補助金 4,732千円 → 優良繁殖雌牛【11頭】購入 1頭当助成金【購入価格の1／2】 補助金 4,732千円 農家負担金 5,495千円 優良繁殖雌牛購入費用 10,227千円																
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明													
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○村内放送を利用し、購入希望農家を募集したため妥当だと考える。													
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○聞き取り調査による事業内容により適正であると考ええる。													
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○繁殖牛価格高騰、及び畜産経営への新規参入の容易さから考慮して負担割合を決定しており、妥当だと考える。													
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。													

市町村名	伊是名村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-③	伊是名村地域資源リサイクル促進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-イ	
担当部課名	農林水産課	事業実施(予定)年度	平成28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	農林水産業の振興 Ⅲ-1-(6)	
事業内容	堆肥原料の確保を図るため、既存の地域資源リサイクル施設に大型破砕機を導入する。						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		28年度	年度	年度	年度	年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	70,600				
		(b) 予算現額	66,333				
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 4,267				
		(d) 繰越額	—				
		A. 計 (b+d)	66,333				
	B. 執行済額		66,333				
	うち交付金充当額		53,066				
	次年度繰越額		0				
	執行率 (%) (B/A)		100%				
予算の状況の説明		入札残により4,267千円減額した。当初計画していた事業内容は予定どおり実施した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	年度	年度	年度	
	自走式破砕機の導入	目 標	(導入)	()	()	()	
		実 績	導入				
	達成状況説明	自走式木材破砕機及び投入機を予定どおり導入した。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値 (26年度)	28年度	年度	年度	目標値 (28年度)
	自走式破砕機の導入:1台	目 標	()	(1台)	()	()	()
		実 績		1台			
	進捗状況説明	自走式木材破砕機及び投入機を予定どおり導入した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	大型破砕機を導入することで処理能力が向上され、これまで処理できなかった、口径10cm以上の樹木も処理可能となったが、適正に維持管理をしなければ故障の原因となる。	大型破砕機を導入したことで、地域からの搬入される草木等の処理を行い、堆肥センターへ堆肥原料としてリサイクルして農家へ供給し農作物の生産性の向上が図られる。 大木等の下処理を行った後に破砕機を使用すること及び、維持管理を徹底し、故障で修理の長期化による破砕機の不備とならぬよう努める。
今後の取り組み方針		
・施設に搬入される草木等を破砕しチップ化することにより、地域資源の循環による環境負荷の低減が図られる。また、農作物の生産性の向上を図るため、堆肥原料として安定供給していく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
		総事業費	交付対象事業費	交付対象外経費
		66,333	66,333	0
		交付金充当額	市町村負担金	
		53,066	13,267	
伊是名村 66,333千円 → 備品購入費 66,333千円 → (株)佐久本工機 66,333千円 〔自走式木材破砕機及び投入機の導入〕				
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定については、指名競争入札により選定したので妥当であったと考える。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、事業内容に見合っており適当であったと考える。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。		
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については支出等に関する書類により確認し、適正であったと考える。	

市町村名	伊是名村						
平成 2 8 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-④	植物工場実証事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-イ	
担当部課名	企画政策課	事業実施(予定)年度	平成28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	農林水産業の振興	
						Ⅲ-1-(6)	
事業内容	現在利用されていない鉄骨ハウスを修繕し、植物工場として再利用するための検討・実証を行う。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			28年度	年度	年度	年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	6,000				
		(b) 予算現額	5,994				
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 6				
		(d) 繰越額	—				
		A. 計 (b+d)	5,994				
	B. 執行済額		5,994				
	うち交付金充当額		4,795				
	次年度繰越額		0				
	執行率 (%) (B/A)		100%				
予算の状況の説明		・計画どおり執行でき適正であったと考える。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	年度	年度	年度	
	植物工場実証調査業務の実施	目 標	(実施)	()	()	()	
		実 績	実施				
達成状況説明	植物工場実証調査業務を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	年度	年度	目標値(年度)
	調査報告書の作成完了	目 標	()	(完了)	()	()	()
		実 績		完了			
	進捗状況説明	遊休化した鉄骨ハウスを植物工場として再整備、再利用するための調査報告書を作成した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	今回調査した内容を基に、次年度以降に実施していくが、環境や市場の状況を勘案し適正な作物を選定する必要がある。	今回はあくまで調査であり、実際に作付けはしておらず、実施して把握できることも多々あると思われるので、調査報告を基に、他地域の状況も参考にしながら実施に取り組んでいく必要がある。
今後の取り組み方針		
・調査報告を基に、平成29年度以降に実施し、将来的には気象条件に左右されない安定した作物を生産できる施設として、徐々に展開していく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>5,994</td><td>5,994</td><td>4,795</td><td>1,199</td><td>0</td></tr> </table> 伊是名村 5,994千円 委託料 5,994千円 NECフィールドینگ(株) 5,994千円 植物工場実証調査業務					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	5,994	5,994	4,795	1,199	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
5,994	5,994	4,795	1,199	0										
資金の流 れ、費 目・ 使 途 の 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、プロポーザル方式で選定しており、妥当であったと考える。 ○予算については、事業規模に見合っており、適正であったと考える。 ○費目・使途は事業目的にのみ限定したことから妥当であったと考える。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												